



CHIBA PREFECTURAL MUSEUM OF ART

千葉県立美術館 年報 NO. 25

April 1998-March 1999
ANNUAL BULLETIN OF
CHIBA PREFECTURAL
MUSEUM OF ART

目 次

ごあいさつ	1
沿 革	2
平成10年度主要記事	4
展 示 事 業	5
常 設 展	6
特 別 展	18
企 画 展	24
普 及 事 業	27
美術講演会・ミュージアムコンサート	28
実技講座	29
こども写生会・情報資料室・活動協力	30
調 査 ・ 収 集 事 業	33
収 蔵 資 料	34
管 理 運 営	36
機 構	37
平成10年度職員・協議会委員	38
利 用 状 況	39
展示室利用団体	40
施 設	44
関係法令等	48
利 用 案 内	49

SECRET

14-00000

14-00000

7E-----

8E-----

0E-----

ご あ い さ つ

平成10年度の千葉県立美術館における活動の実績を年報としてまとめました。

本館は昭和49年の開館以来、地域美術館及び近代美術館としての活動を通し、県民のさまざまな美術に対する要望にこたえるよう努めてまいりました。

10年度は特別展として、本県出身の近代洋画の先駆者、浅井忠の洋画、日本画、図案等による「浅井忠展」と、ミレーをはじめとして、パリ郊外のバルビゾン村に集まった画家たちに焦点をあてた「自然を描くーミレーとバルビゾン派の画家たちー」を開催しました。企画展としては、新文展審査員を務めるなど美術振興に尽力し、鴨川市に在住した染色工芸家、木村和一に焦点をあてた「木村和一展」を開催しました。

一方、本館が収蔵する作品の展示については、種々のテーマに基づいた常設展を開催したほか、館外2地域において移動美術館を実施しました。

このほか、美術についての理解を深め、作品鑑賞の一助とするため、展覧会に関連づけて美術講演会を開催し、さらに、こどもたちに創作の喜びを体験してもらおうとともに、美術館活動に対する理解を深めてもらうため、県内の小学生を対象にした「こども写生会」を開催しました。また、美術の各分野にわたる実技講座を実施し、ますます高まっている県民の美術創作への意欲にこたえてまいりました。

作品の収集にあたっては、既に策定されている基本方針に基づき、作家や所蔵家の協力を得ながら、コレクションの体系化とその充実化を図りました。

今後とも、関係諸機関や各団体をはじめ、県民の皆様方の御指導と御支援をお願いいたします。

平成11年6月

千葉県立美術館長

鈴 木 道 之 助

沿 革

千葉県立美術館は、昭和43年にまとめられた県立博物館設置構想に基づき建設計画をすすめ、昭和48年4月教育庁文化課に美術館準備室を置き、開館事務に当たった。同49年3月第1期工事の展示棟が完成し、4月1日千葉県立美術館として機関設置し、10月23日開館式を挙げ、一般公開を始めた。同51年に第2期工事の管理棟が、同55年2月に第3期工事の県民アトリエ棟、更に同63年8月の増築工事で展示棟及び収蔵庫が完成した。

昭和44年12月9日 第1回千葉県立美術館建設懇談会が開かれる(委員15名)
昭和45年1月19日 県立美術館建設の請願書が2月県議会で採決される
昭和45年7月24日 建設地として千葉公園に内定する
昭和45年11月12日 第1回美術館設置準備専門委員会が開かれる(委員10名)
昭和46年3月31日 千葉公園内の美術館基本構想成る
昭和46年6月24日 体育館移転問題等で千葉公園内建設が不可能となる代案として千葉市中央港埋立地が提示される
昭和47年1月5日 建設地を千葉市中央港の埋立地に決定し、使用について開発庁長と教育長で覚書を交換する
昭和47年3月31日 基本設計完了する(株式会社大高建築設計事務所)
昭和47年7月31日 展示棟第1期工事の実施設計完了する
昭和47年9月21日 展示棟杭打工事着工
昭和47年10月13日 展示棟建築工事請負契約議案可決される
昭和47年12月10日 展示棟建築工事着工(監理・大高建築設計事務所、施工・株式会社竹中工務店)
昭和48年4月1日 文化課に美術館準備班を置き、開館事務に当たる
昭和48年11月30日 管理棟(第2期工事)の実施設計完了する
昭和49年3月31日 展示棟竣工
昭和49年4月1日 千葉県立美術館発足する(職員14名)
昭和49年10月23日 開館記念式典を行う
昭和49年10月24日 開館記念展「千葉県美術展覧

会」を開催一般公開を始める
昭和50年2月21日 管理棟杭打工事着工
昭和50年3月13日 管理棟建築工事請負契約議案可決される
昭和50年3月16日 管理棟建築工事着工(監理・大高建築設計事務所、施工・株式会社竹中工務店)
昭和51年2月20日 管理棟竣工
昭和51年3月2日 管理棟完成記念特別展「浅井忠とその師弟展」を開催する
昭和51年6月7日 寄附によって、正面玄関に植栽を行う
昭和52年3月12日 彫刻の屋外展示を始める
昭和52年4月10日 展示棟の一室に美術普及室を開設する
昭和53年1月18日 外構工事として、駐車場が拡張され、100台の収容となる
昭和53年2月21日 美術普及棟の準備会が発足する
昭和53年10月17日 美術普及棟建築予算が計上される
昭和53年11月18日 浅井忠像完成除幕式
昭和53年11月30日 美術普及棟実施設計完了する
昭和54年1月8日 美術普及棟を県民アトリエ棟と改称する
昭和54年3月5日 県民アトリエ棟建築工事請負契約議案可決される
昭和54年3月22日 県民アトリエ棟建築工事着工(監理・大高建築設計事務所、施工・株式会社竹中工務店)
昭和55年2月29日 県民アトリエ棟竣工
昭和55年3月16日 県民アトリエ棟完成記念講演会
昭和55年4月1日 千葉県美術品取得基金条例施行される
昭和55年9月9日 県民アトリエ棟情報資料室を開設する
昭和58年7月29日 美術普及コーナーを開設する
昭和58年11月12日 開館10周年と県展開催35周年を記念した記念碑を建立する
昭和61年3月25日 展示棟、収蔵庫、機械室増築工事設計料の予算化
昭和61年4月10日 入口門扉4カ所設置
昭和61年4月23日 美術館西側沿道寄りの生垣植栽
昭和61年8月12日 講堂浸水防止工事
昭和62年3月25日 機械室増築基本設計及び展示

	棟，収蔵庫，機械室増築工事 実施設計完了する	平成2年6月8日	空調機改修工事完了する
昭和62年10月15日	展示棟，収蔵庫，機械室増築 工事着工（監理・大高建築設 計事務所，施工・株式会社竹 中工務店）	平成2年9月29日	収蔵庫（第1，2室）冷凍機 改修工事着工
昭和63年5月20日	受水槽設備改修工事（地上式） 着工	平成2年11月7日	案内標識改修工事着工
昭和63年8月31日	受水槽設備改修工事（地上式） 完了する	平成3年1月31日	収蔵庫（第1，2室）冷凍機 改修工事完了する
昭和63年8月31日	展示棟，収蔵庫，機械室増築 工事完了する	平成3年2月20日	案内標識改修工事完了する
平成元年2月28日	増築展示棟周辺芝張工事完了 する	平成3年12月6日	空調用ポンプ改修工事完了す る
平成元年4月1日	普及課が新設され，3課とな る	平成4年4月1日	運営の一部が（財）千葉県社 会教育施設管理財団へ委託さ れる
平成元年4月20日	開館15周年記念特別展「房総 と近代美術」を開催する	平成4年10月20日	温湿度記録装置改修工事完了 する
平成元年9月11日	空調機改修工事实施設計完了 する	平成4年12月18日	食堂改修工事完了する
		平成6年7月23日	開館20周年記念特別展「房総 の美術」を開催する
		平成10年2月23日	ガス設備改修工事完了する
		平成10年12月24日	空調設備改修工事完了する

平成 10 年 度 主 要 記 事

4 月 1 日	常設収蔵作品展 「房総と近代美術」 「新収蔵作品」 (5 月31日まで)	12月12日	特別展 「自然を描くー ミレーとバルビゾン派の画家たち」 (1 月24日まで)
5 月12日	洋画講座 (5 月27日まで 日数 9 日)	1 月 5 日	常設収蔵作品展 「彫刻」 (4 月11日まで)
6 月 4 日	日本画講座 (6 月19日まで 日数12日)	1 月 9 日	ミュージアムコンサート
6 月 6 日	特別展 没後の90年記念 「浅井忠展」 (7 月12日まで)	1 月16日	美術講演会
6 月23日	陶芸講座 (8 月 6 日まで 日数 9 日)	1 月30日	常設収蔵作品展 「房総と近代美術」 「書の世界」 「美術の中の表現・花」 (3 月22日まで)
6 月27日	第3回こども写生会	2 月16日	金工講座 (3 月 4 日まで 日数12日)
7 月21日	博物館実習 (7 月27日まで 日数 6 日)		
7 月22日	第3回こども写生会展 (7 月27日まで)		
7 月25日	常設収蔵作品展 「房総と近代美術」 (10月11日まで) 「美術の中の表現・夏」 「金工の世界ー津田信夫と香取秀真」 「こどものための展覧会」 (8 月30日まで)		
8 月26日	彫刻講座 (9 月12日まで 日数10日)		
9 月 5 日	房総の美術家シリーズ(25) 企画展「木村和一展」 常設収蔵作品展 「房総の工芸」 (10月11日まで)		
11月18日	版画講座 (12月 3 日まで 日数12日)		
11月20日	企画展「第22回千葉県移動美術館」 (鴨川市民ギャラリー 12月 3 日まで)		
11月21日	常設収蔵作品展 「浜口陽三・深沢幸雄の世界」 (12月 6 日まで)		
12月 6 日	企画展「第22回千葉県移動美術館」 (浦安市民ギャラリー 12月17日まで)		
12月 8 日	書講座 (12月10日まで 日数 3 日)		

展 示 事 業

常設収蔵作品展は、日頃鑑賞の要望の高い作品を選んで紹介する「房総と近代美術」などを初め、「水彩画の流れ」「美術の中の表現・夏」「こどものための展覧会」「浜口陽三・深沢幸雄の世界」「書の世界」など、テーマに基づく構成により開催した。

特別展としては、「浅井忠展」と「自然を描くミレーとバルビゾン派の画家たち展」を実施した。

また、企画展としては、「房総の美術家シリーズ（25）木村和一展」と「第22回千葉県移動美術館」を鴨川市と浦安市で開催した。

「房総と近代美術」

「房総と近代美術」では、浅井忠や房総ゆかりの作家を始めとして、日頃鑑賞の要望の作品を紹介した。

会 期	1	平成10年4月1日(水)～5月31日(日)	53日間
	2	7月25日(土)～10月11日(日)	68日間
	3	平成11年1月30日(土)～3月22日(月)	45日間
展示点数	1	26点	
	2	17点	
	3	23点	
入場者数	1	19,635人	
	2	37,610人	
	3	20,195人	

〈日本画〉

1	石井 林 響	白閑鳥	1924～25
2	〃	蓬莱仙境之図	1927
3	〃	秋景山水	1928
4	〃	雨後浮船	
5	〃	桃源	
6	〃	梅花書屋	
7	〃	老松白鷺之図	
8	富取 風 堂	朝光	1931
9	〃	斜陽(夏すがた其一)	1936
10	〃	夜(夏すがた其二)	〃
11	〃	漁村の初夏	1942
12	〃	花	1953
13	〃	暮色	1962
14	東山 魁 夷	春雪	1973
15	〃	秋深	1975

〈洋 画〉

1	浅井 忠	藁屋根	1887頃
2	〃	小丹波村	1893
3	〃	漁婦	1897
4	〃	母の肖像	1899
5	〃	フォンテンブローの夕景	1901
6	〃	農婦	1902
7	〃	老母像	1906
8	〃	婦人像	1907
9	石井 柏 亭	冬の朝(行徳)	1909
10	梅原 龍三郎	皇居	1980
11	〃	竹窓読書図	1937
12	〃	純子像	1968
13	黒田 重太郎	女と小犬	1928
14	安井 曾太郎	熱海附近	1929
15	クールベ	雪の中の小鹿	1869頃

16	コ ラ ン	田園詩	1903
17	コ ロ ー	フォンテンブローの風景	1830～35頃
18	ジャ ッ ク	森の中	1871
19	デュ プ レ	嵐の前	
20	フォンタネージ	十月、牧場の夕べ	1860
21	〃	森の空地の農婦	1862頃
22	〃	牛を追う農婦	〃
23	〃	羊飼いの少女	
24	ミ レ ー	垣根に沿って草を食む羊	1860頃
25	ラ ヴ ィ エ	モレステル風景(沼)	1867～95
26	〃	モレステルの谷	
27	ル ソ ー	バルビゾンの農場	1850～55頃
28	ルノワール	少女像	1916～18
29	ローランス	カルカッソンの幽閑者の解放	

〈彫 刻〉

1	高村 光太郎	裸婦座像	1916頃
2	〃	手	1918
3	〃	十和田裸婦のための中型試作	1953

〈工 芸〉

1	香取 秀 真	烏銅鳳凰香炉	1911
2	〃	瑞鳥飾三足鑪	
3	〃	霊獣文大花瓶	
4	津田 信 夫	ラジエーターの装飾	1929
5	〃	変貌七色	1933
6	〃	鴨	1936
7	〃	鑄銅水盤	1937
8	〃	北辺夜猫子	1941
9	宮之原 謙	壁面照明銀河	1931
10	〃	彩盛百合文壺	1974
11	〃	鉄茶釉鱗文花瓶	1975頃
12	〃	釉嵌よろけ縞と盛上円壺	

「新収蔵作品」

「新収蔵作品」では、平成9年度に新たに収蔵した洋画、彫刻、工芸、書の作品を紹介した。

会 期 平成10年4月1日(水)～5月31日(日) 53日間

展示点数 27点

入場者数 19,635人

〈洋 画〉

1	浅井 忠	巴里婦人	1902～07
2	遠藤 健郎	我は海の子	1997
3	〃	房総線ディーゼル・カーの乗客たち	〃
4	小堀 進	川原湯風景	1934
5	〃	太平洋の漁村	1941
6	〃	溪流	1960頃
7	坂本 繁二郎	海藻採りの海女	1912
8	時田 幸彦	レダと白鳥	1995
9	ドービニー	オワーズ川のほとり	1865
10	ラヴィエ	モレステルの谷	

〈彫 刻〉

1	澤田 志功	森は観つめる	1995
2	伴 正史	人「無言」	1997
3	頼 永興	心海悠遊	〃

〈工 芸〉

1	飯塚 小玕斎	掛花簞	
2	板谷 波山	香炉	
3	加藤 土師萌	酒瓶	1942
4	河村 蜻山	初黒茶碗	1938～46頃
5	染川 鉄之助	青銅石の目	
6	津田 信夫	茶碗	
7	西 大由	青銅小壺	

〈書〉

1	岩波 白鵬	陶淵明詩三首	1997
2	小川 瓦木	古代人からのメッセージ5	〃
3	〃	古代人からのメッセージ8	〃
4	千代倉 櫻舟	心・翔・宙	1995
5	〃	愛・焰・夢	1997
6	〃	昭和万葉集	〃
7	福田 丞洲	鄭板橋詩	1996

「水彩画の流れ」

「水彩画の流れ」では、明治から昭和における水彩画の流れを、多数の画家による個性あふれた魅力的な作品で、前期・後期にわけて紹介した。

会 期	前期	平成10年 4 月 1 日(水)～ 4 月26日(日)	23日間
	後期	5 月 2 日(土)～ 5 月31日(日)	27日間
展示点数	前期	47点	
	後期	48点	
入場者数	前期	5,634人	
	後期	12,599人	

1	相田 直彦	清浪		34	古賀 春江	風景	
2	赤城 泰舒	赤屋根の村	1913	35	後藤 工志	ダリア	1913
3	〃	普陀正趣亭	1936	36	小堀 進	真夏の海(太海)	1931
4	〃	杭州葛嶺	1936頃	37	〃	風の日の海辺	1935
5	〃	山湖	昭和初期	38	〃	冬晴の果樹園	1936
6	荒谷 直之介	大島風景	1920	39	〃	漁村	1937
7	〃	白船入港(マラガ)	1962	40	〃	高原	1951
8	〃	那覇の踊り子	1967	41	〃	海(白浜)	1954
9	〃	若い裸婦たち	1976	42	〃	南欧の丘	1962
10	安藤 信哉	静物	1977	43	〃	レマン湖畔	〃
11	〃	静物	1980頃	44	〃	雨後の山(信州)	1964
12	〃	みなと		45	〃	ロンドンの朝	〃
13	五百城 文哉	日光		46	〃	山	1965
14	五十嵐 光昭	涅槃の前で	1983	47	〃	霞ヶ浦	1973
15	池田 満寿夫	作品	1958	48	〃	セーヌ川	〃
16	〃	水彩	〃	49	〃	逆光	1974
17	石井 光楓	タコマ	1925	50	小山 周次	ばら	1938
18	〃	アール市・場末		51	〃	甲斐牧丘	1946
19	〃	荷揚げ		52	〃	花菖蒲	1958
20	石井 柏亭	病児	1904	53	〃	三宝柑	1961
21	〃	舟に居る人	1913	54	〃	林檎と柿	〃
22	〃	晩春行楽図	1938	55	柴田 祐作	佐原風景	1980
23	〃	裏磐梯の秋	1952	56	〃	水郷静日	1981
24	〃	舞姫	1953	57	白滝 幾之助	エジプト	1922
25	石川 欽一郎	赤城淡煙		58	〃	伊国アシシ	1923
26	今井 謙二	姉ヶ崎		59	〃	伊国ナポリ	〃
27	瑛 九	鳥	1956	60	〃	海	1939
28	榎本 了三	花籠	1975	61	須田 国太郎	風景(漁船)	
29	大崎 善生	十二橋	1950頃	62	十亀 広太郎	道	1921
30	〃	溪流	1988	63	〃	上野公園池畔	1924
31	大下 藤次郎	紫陽花	1904	64	〃	女	〃
32	大下 藤次郎	青梅	〃	65	田中 善之助	聖護院の裏	1907
33	国枝 金三	大阪風景	1909	66	〃	山門	

67	鶴田 吾郎	池袋風景	1911	82	牧野 克次	松林	
68	富田 通雄	静かなる日	1937	83	真野 紀太郎	バラ	1939~40
69	"	外房鶴原	1964頃	84	"	"	1940
70	中西 利雄	トリエール・シュール・セーヌ	1930	85	間部 時雄	寒林	
71	"	南仏風景	"	86	"	田中の牧場	
72	中林 儼	冬の風景	1935頃	87	丸山 晚霞	長野水内風景	1898
73	"	山中湖附近		88	水野 以文	草花	1914
74	鳩川 誠一	花火	1955	89	三橋 兄弟治	楽器のある静物	1953
75	"	荒川風景	1958	90	"	染色をする女	1954
76	"	祭	1971	91	"	作品Ⅱ	1967
77	"	ノエル	1973	92	"	トレド早春	1973
78	不破 章	裁縫女	1943	93	三宅 克己	小諸城址	1900
79	"	二女	1953	94	無縁寺 心澄	医大尖煙突	
80	"	ルッセルスハイム	1974	95	"	旧県庁と噴水	
81	"	麗日新宿御苑	1977				

「金工の世界 津田信夫と香取秀真」

近代工芸界のリーダーとして工芸の地位向上に尽くした千葉県出身の金工作家、津田信夫と香取秀真の作品を紹介した。

会 期 平成10年7月25日(土)～8月30日(日) 32日間

展示点数 40点

入場者数 18,019人

1	津田 信夫	花瓶	1918	21	香取 秀真	懸花生	1907
2	"	煙草入れ (巻煙草箱)	1926	22	"	烏銅鳳凰香炉	1911
3	"	変貌七色	1933	23	"	龍	1937
4	"	一點玲瓏	1934	24	"	鳩香炉	1949
5	"	嘶馬	"	25	"	瑞鳥飾三足鑪	
6	"	胡孫遊目	1935	26	"	美々豆久香爐	
7	"	雷吼一聲	"	27	"	千本松文釜	
8	"	鴨	1936	28	"	鶴文鉄釜	
9	"	鳳翔薫炉	1937	29	"	鑄鉄茶釜	
10	"	子迷家鴨	1938	30	"	菊文釜	
11	"	鷺	1939	31	"	燼壺	
12	"	北辺夜猫子	1941	32	"	靈獸文大花瓶	
13	"	閑鱗上下	"	33	"	鳳凰文様花瓶	
14	"	荒鷺	1942	34	"	笑獅子香炉	
15	"	唐獅子置物	1946	35	"	筋入花瓶	
16	"	水盤		36	"	六角火鉢	
17	"	兎		37	"	鉄瓶	
18	"	月下妖麗		38	"	銅製鰐口	
19	"	水牛		39	"	銅製鼎	
20	"	犬		40	"	銅製おしどり型香合	

「美術の中の表現・夏」

「美術の中の表現・夏」では、風景や人物、植物などの表現の中で夏を感じさせる日本画、洋画の作品を紹介した。

会 期 平成10年7月25日(土)～8月30日(日) 32日間

展示点数 27点

入場者数 18,019人

〈日本画〉

1	黒沢 吉蔵	古郷晩夏	1988	5	足立 源一郎	水郷初夏 (中州) (4)	1955
2	富取 風堂	漁村の初夏	1942	6	〃	水郷初夏 (中州) (5)	〃
3	〃	花籠	1954	7	荒谷 直之介	白船入港 (マラガ)	1962
4	〃	初夏	1972	8	石橋 武治	水辺初夏	
5	横尾 芳月	緑陰	1959	9	大久保 作次郎	海水浴帰り	1917
6	若木 山	海女	1952	10	〃	お茶どき	1950
7	〃	波上海女図	1953	11	大野 隆徳	不忍池の初夏	1929
8	渡辺 学	下総の海女	1982頃	12	小堀 進	真夏の海 (太海)	1931
				13	椿 貞雄	夏之路傍	1921
				14	〃	夏の風景	1928

〈洋画〉

1	足立 源一郎	水郷初夏 (十二橋)	1955	15	鶴田 吾郎	お山の鈴音	1968
2	〃	水郷初夏 (中洲) (1)	〃	16	都鳥 英喜	海浜風景	1909
3	〃	水郷初夏 (中州) (2)	〃	17	不破 章	バンコクの水辺市	1966
4	〃	水郷初夏 (中州) (3)	〃	18	〃	台湾の農家	1978
				19	前嶋 実	九十九里初夏	1988

「こどものための展覧会」

小学校高学年の児童から中学生を主な対象として、現代の美術作品の中からこどもたちに親しみやすい作品を紹介した。

会 期 平成10年 7月25日(土)～8月30日(日) 32日間

展示点数 23点

入場者数 18,019人

〈洋 画〉

1	伊牟田 經正	悲劇	1977
2	片小田 栄治	地I (DIRTY COLLECTIONより)	1990
3	久保木 彦	鉄路の信号ボックス	1978
4	斎藤 捷夫	海辺の光景	1983
5	佐 善 明	New York Letter	1984
6	〃	サンフランシスコ昼下り	1987
7	高森 登志夫	絵画	1983
8	松本 秋美	aspettare	〃
9	靉 嚶	CLOUDS	1975
10	〃	HEARTS	〃
11	〃	INSECTS	〃
12	〃	BIRDS	〃
13	〃	ANGELES	〃

14	伊藤 順一	里	1992
15	熊谷 文利	薬を飲む女祈祷師	1979
16	近藤 南海子	グレーの冬	1992
17	中野 庸二	a ripple	1990
18	星加 達夫	影	1996

〈工 芸〉

1	堀口 光彦	日曜日の朝	1977
2	〃	安眠装置	1986

〈彫 刻〉

1	笠原 鉄明	帰る日	1993
2	池田 丈一	ひねくれた正四面体	1981
3	〃	ひねくれた正12面体	1986～87

「房総の工芸」

房総の工芸家を主に、様々な工芸作品を紹介した。

会 期 平成10年 9 月 5 日(土)～10月11日(日) 32日間

展示点数 50点

入場者数 18,272人

〈陶 芸〉

1	神谷 紀雄	鉄絵銅彩椿紋壺	1987	3	青木 滋芳	寂	1970
2	河村 蜻山	長方皿 雨・風・晴		4	〃	黒潮	1977
3	土肥 刀泉	釉彩両耳花瓶	1967頃	5	上野 斌郎	蓼畑	1930
4	土肥 紅繪	小袖随想	1992	6	〃	二婦人染色壁掛	
5	土肥 満	向いあう単体	1975	7	〃	草花図染色屏風	
6	三橋 英作	象嵌花器(展)	1984	8	〃	郊外秋景染色屏風	
7	宮之原 謙	象嵌十字星結晶花挿	1932	9	深沢 範子	花かげ	1970
8	〃	象嵌磁盛上花蝶鉢	1938頃	10	〃	今日も明日も	1983
9	山本 正年	黎明	1953	11	〃	シニョリーア回廊	1990
10	横山 朝陽	牡丹紋搔落壺		12	二口 志保子	動	1968
11	横山 光之介	戦碑	1976	13	〃	水面	1967
				14	〃	花	
				15	〃	紬織着物	

〈金 工〉

1	会田 富康	蓋のある青銅壺	1965
2	香取 秀真	烏銅鳳凰香炉	1911
3	〃	鳩香炉	1949
4	香取 正彦	鋳銅四神文四方花瓶	1952
5	小林 正利	祈り(啓蟄)	1975
6	鈴木 治平	湿原の詩	1985
7	津田 信夫	海	1927
8	〃	ラジエーターの装飾	1929
9	〃	鳳翔薫炉	1937
10	信田 洋	装瓶(樓)	1966
11	堀口 光彦	日曜日の朝	1977
12	〃	安眠装置	1986
13	宮田 宏平	生命の透間風	1982

〈染 織〉

1	青木 滋芳	洞門	1965
2	〃	染色笠森寺(古刹)	1969

〈漆 芸〉

1	佐治 賢使	苑	
2	佐藤 陽雲	木彫彩漆香	
3	武田 武弘	ランボーの詩より『朝』	1975
4	増村 益城	乾漆波文溜塗盛器	1965
5	三村 比呂志	想曲	1971

〈木 工〉

1	秋山 逸生	菱華文象嵌長手箱	1946
2	〃	蝶貝象嵌箱	1966
3	中臺 瑞真	桐経箱	1992
4	〃	十六弁菱形盤	

〈ガラス工芸〉

1	藤田 喬平	飾筥朱雀	1978
2	〃	飾筥・しだれ櫻	1985

「浜口陽三・深沢幸雄の世界」

浜口陽三、深沢幸雄の銅版画を中心に個性あふれる作品を年代を追って紹介した。

会 期 平成10年11月21日(土)～12月6日(日) 14日間

展示点数 51点

入場者数 18,929人

1	浜口 陽三	レダ	1951	27	深沢 幸雄	遺伝(流れ)	1964
2	"	顔	1954	28	"	古い楽譜(記号)	1965
3	"	うさぎ	1955	29	"	土と火の祝祭	1966
4	"	パリの屋根	1956	30	"	女帝	1967
5	"	緑のぶどう	1958	31	"	神威A	1971
6	"	ういきょう	"	32	"	悠久に続く赤い線	"
7	"	ざくろ	"	33	"	窓	1972
8	"	白菜	1960	34	"	星の門	"
9	"	ピーマンのある静物	"	35	"	凝視(青)	1973
10	"	ポプラ	1961	36	"	青い裸像A	1975
11	"	赤い鉢と黒いさくらんぼ	1966	37	"	掌の中の影	1976
12	"	190と1匹	1975	38	"	凍れる歩廊(ベーリング海峡)	1978
13	"	さくらんぼと青い鉢	1976	39	"	影の中の恋人	"
14	"	1/4のレモン	"	40	"	りんごの中の夜A	"
15	"	二匹の蝶	1977	41	"	この遙かな遠い道	1979
16	"	8つのクルミ	"	42	"	天空を計る	"
17	"	西瓜	1981	43	"	湾頭に開く花	"
18	"	緑の毛糸	"	44	"	アシェンダの地下にて	1980
19	"	ロビーナのさくらんぼ(7枚組)	"	45	"	星屑劇場	1983
20	"	びんとレモン	1983	46	"	憂愁市場(迷路)	1985
21	"	てんとう虫(7枚組)	1984	47	"	小鳥紳士	1988
22	"	黄色い編み棒	1985~89	48	"	樹精	1990
23	"	22のさくらんぼ	1988	49	"	ロック	"
24	深沢 幸雄	ダンテ「神曲」〈地獄篇〉よりチェルペロ	1957	50	"	長い飛行機の旅	1991
25	"	愛憎	1960	51	"	白い抒情の人	1992
26	"	飛天挽歌	"				

「書の世界」

房総の代表的な書家を中心に、多様な書の表現を紹介した。

会 期 平成11年 1 月30日(土)～ 3 月22日(月) 45日間

展示点数 22点

入場者数 20,195人

1	浅見 喜舟	崔子玉座右銘	1967	12	小暮 青風	一閑人	1990
2	〃	無事	1973	13	子安 花邨	バイロンの言葉	1966
3	浅見 錦龍	九十九里	1960	14	鈴木 方鶴	一笑千山青	1984
4	今関 脩竹	山峡の水	1964	15	高沢 南総	春風秋月	1965
5	〃	若草山	1986	16	高宮 金陵	山部赤人歌	
6	江川 碧潭	龍溪山		17	種谷 扇舟	故郷之山河	1971頃
7	大石 隆子	待君	1975	18	千代倉 桜舟	宗左近の詩	1988
8	大野 虚舟	子供の情景－記号探しのパズル	1985	19	〃	愛・焰・夢	1997
9	小川 瓦木	叙情	1959	20	中台 邱園	盧綸詩	1986
10	金子 聴松	孟浩然詩	1992	21	中村 象閣	古泉千櫓の歌	1972
11	小暮 青風	万葉集東歌	1975	22	福田 丞洲	摩訶般若	1993

「美術の中の表現・花」

「美術の中の表現・花」では、「花」をテーマに日本画・洋画・版画・工芸の作品を紹介した。

会 期 平成11年1月30日(土)～3月22日(月) 45日間

展示点数 63点

入場者数 20,195人

〈日本画〉

1	浅井 忠 梅	1892
2	〃 蓮と蘭の図	1902~07
3	五十嵐 幹 紅粧	1975
4	石井 鼎湖 立姿婦人図	
5	石井 林響 木華開耶姫	1906
6	〃 春秋	
7	〃 梅花井泉	
8	稲木 皓人 更衣	1973
9	黒沼 槐山 栢榴	1881
10	島多 訥郎 秋趣	1966
11	鈴木 鷺湖 蜀の栈道図	
12	椿 椿山 鶏頭遊藝図	1852
13	寺崎広業・川端玉章 花鳥人物図	
14	富取 風堂 洋蘭	1952
15	〃 華籠	1954
16	〃 雨の花	1963
17	〃 初夏	1972
18	松村 乙彦 菊人形	1942
19	〃 化粧	1947
20	横尾 芳月 鏡獅子	1981
21	〃 夕粧	〃
22	〃 春風	1986
23	渡辺 阿以湖 牡丹	〃

〈洋 画〉

1	浅井 真 山百合	1960~61
2	〃 見晴礦泉	1967
3	〃 シンビジュウム	1973
4	〃 赤軸の梅	1975
5	安藤 信哉 花束	1970
6	板倉 鼎 静物	1927
7	〃 金魚	1928
8	〃 裸婦	1929
9	伊藤 快彦 ダリア	昭和初期
10	梅原 龍三郎 純子像	1968

11	大久保 作次郎 お茶どき	1950
12	大野 隆徳 ジョッキにさせるバラ	1931
13	小川 イチ 春のおわり	1991
14	鹿子木 孟郎 裸女と野花	
15	岸 畑 久吉 神社	1913
16	久保 木 彦 夢の詩	1978
17	桜井 忠剛 バラ	
18	澤部 清五郎 桜	
19	田中 善之助 初秋の庭	1932
20	椿 貞雄 牡丹	1920
21	〃 春夏秋冬図屏風(春)	1931
22	鶴田 吾郎 千川堤の桜	1912
23	鳩川 誠一 長屋門	1932~33
24	〃 あもりのあんず	1941
25	〃 女たち	1949

〈水彩画〉

1	浅井 忠 京都工芸学校の庭	1903
2	中林 儼 けしの花	
3	丸山 晚霞 初夏	

〈工 芸〉

1	秋山 逸生 蕾芝山象嵌額	1966
2	〃 カンナ芝山象嵌襟飾	1973
3	土肥 刀泉 銅彩牡丹文扁壺	
4	信田 洋 透彫菖蒲文筥	
5	宮之原 謙 牡丹文盛上水指	1935頃
6	〃 鉄釉牡丹唐草彫文壺	1938頃
7	横山 朝陽 草花紋搔落皿	
8	〃 花鳥文四方水指	

〈版 画〉

1	瑛 九 ひまわり銅版画集4「サーカス」	1955
2	関 主税 秋色浅間「信濃路春秋」より	1982
3	浜口 陽三 草花	1952
4	〃 版画集「ポルトフォリオ」	1974

「彫 刻」

「彫刻」では、様々な素材や技法によって表現された彫刻作品を紹介した。

会 期 平成11年1月5日(火)～4月11日(日) 84日間

展示点数 43点

入場者数 37,341人

館内展示作品

1	大須賀 力	或るポーズ	1988
2	陰里 寿朗	構造上の森(街かもしれない)	1988
3	金田 雄作	“BedRoom”N氏邸見取図より	1984
4	神野 義衛	呻	1972
5	郡司 和男	詩人の肖像	1976
6	澤田 志功	森は観つめる	1995
7	鈴木 徹	さくら貝	1978
8	長谷川 昂	朝	1979
9	原 武典	水の中の太陽 ('82)	1982
10	舟越 保武	婦人像	1985
11	堀 豊之	姉妹	1984
12	堀川 恭	聖なる佇立	1981
13	松本 雄治	大母神、天を翔ける	1984
14	六崎 敏光	香風	1984
15	山本 正道	エトルリアの壺	1985
16	菊池 一雄	手を挙げる	1977
17	木村 賢太郎	うごめくトルソーⅥ	1975
18	郡司 和男	天使	1978
19	佐藤 忠良	ラップ帽	1982
20	高田 博厚	ロマン・ロラン	1961
21	高村 光太郎	薄命児男子頭部	1905
22	中島 幹夫	風の肖像	1975

23	長谷川 昂	砂あそび	1997
24	柳原 義達	風の中の鴉	1984
25	ブールデル	聖母子	1921

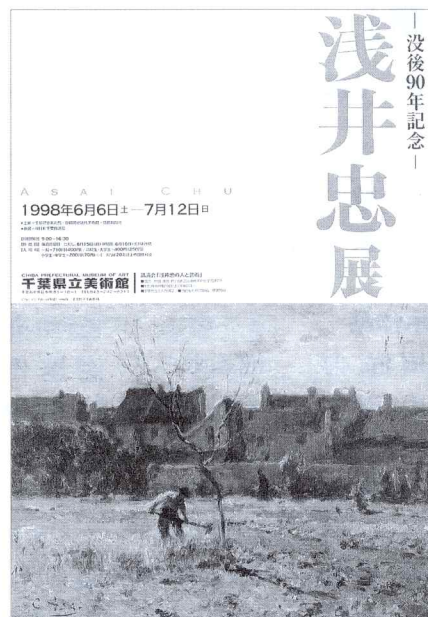
野外展示作品

1	青木 三四郎	憩い	1984
2	大須賀 力	椅子の女	1975
3	〃	浅井忠像	1978
4	木村 賢太郎	立像	1956
5	〃	うごめくトルソーⅡ	1974
6	〃	海	1980
7	酒井 良	時を刻む	1985
8	鈴木 啓子	FEELING-LOVE白いポエジー	1973
9	鈴木 徹	帰雲・春	1978
10	零駒 無蔵	過ぎし日のアパート	1989
11	〃	集う人々の列に・・・	1991
12	高田 大	リラックス	1984
13	田中 毅	草枕の旅	1993
14	中岡 慎太郎	“FANTASY”	1993
15	藤野 天光	銃後工場の護り	1938
16	〃	ああ青春	1962
17	三木 俊治	行列	1985
18	山崎 英五	地を這うものどもⅩⅣ	1981

一没後90年記念一浅井忠展

会 期 平成10年 6 月 6 日(土)
 ～ 7 月12日(日) 32日間
 主 催 千葉県立美術館
 京都国立近代美術館
 京都新聞社
 出品点数 288点(洋画135点, 日本画30点,
 工芸32点, 図案44点, 資
 料47点)
 入場者数 19,024人

本展覧会は、日本の近代洋画の先駆者として大きな業績を残した浅井忠(1856～1907)の没後90年を記念して開催したもので、初期(東京時代)から滞欧期を経て晩年(京都時代)までの油彩画、水彩画を中心に、日本画、工芸、図案など、海外所蔵の作品を含む代表作約240点と関連資料を一堂に展覧し、浅井忠の幅広い芸術の全貌を回顧した。



I. 洋 画			25	秋郊	1887頃	
1	後期	少女の顔	1878	26	藁屋根	〃
2		徳川家の霊廟	〃	27	春畝 [重要文化財]	1888
3		徳川家の霊廟	〃	28	本と花	1889
4		鍛冶橋	1878頃	29	農人	1890頃
5		印旛沼	〃	30	風景	1892頃
6		本所風景	〃	31	小丹波村	1893
7		玉川	〃	32	石門子小休止図	1894
8		風景	〃	33	朝鮮大同門図	〃
9		沢入駅	1884	34	平壤大同江煉光亭	〃
10		溪流	〃	35	花園口上陸図	1894~95
11		室内風景	〃	36	貔子窩第二軍司令部	〃
12	前期	足尾村	〃	37	瀋家邨天長節祝宴	〃
13		鎌倉雪ノ下	1885	38	金州城南門外	〃
14		風景（鎌倉）	〃	39	金州城壁上	〃
15		曳舟通り	〃	40	露營	1895
16		綾瀬川付近	〃	41	樋口大尉小児を扶くる図	〃
17	前期	綾瀬川付近	〃	42	旅順戦後の搜索	〃
18		農夫帰路	1887	43	湯島聖堂大成殿	1896
19		八王子付近の街	〃	44	漁婦	1897
20		上州風景	〃	45	漁村の少女	1897頃
21	後期	農家室内	〃	46	武蔵野（武士鷹狩図）	1898
22		室内	〃	47	都鳥助八重成像	1898頃
23		房州白浜	1886~87	48	老嫗像	〃
24		房州白浜	1887	49	母の肖像	1899

50		河合辰太郎像	1899	94		ポートセイド港	1902
51	前期	巴里リクサンブル公園	1900	95	後期	香港	〃
52		花売り	〃	96		菅治兵衛像	1902頃
53		日本髪少女(板原はつ像)	1900頃	97		風景	1902
54		パリ公園	〃	98		風景	1902~1907
55		グレーの塔	1901	99	後期	永観堂庭内	〃
56		フォンテンブローの森	〃	100		農家	1902
57		フォンテンブローの夕景	〃	101		中沢岩太博士像(肖像)	1903
58	前期	フォンテンブローの森	〃	102		聖護院の庭	〃
59	後期	グレー風景(黄昏)	〃	103		京都高等工芸学校の庭	〃
60	前期	グレーの牧牛	〃	104		秋林	〃
61		グレーの古橋	〃	105		比叡山	〃
62		グレーの洗濯場	〃	106		垂水の浜	〃
63		グレーの柳	〃	107		雲	1903~1907
64		グレーの秋(落葉)	〃	108		古武士(弓を引く武士)	1904
65		編みもの	〃	109		花売り	〃
66		原野樹林	〃	110		白川女	〃
67		フォンテンブローの森	〃	111		安治川風景	1904頃
68		モンクール風景	〃	112		京都の牛	〃
69		収穫	〃	113		奈良の鹿	〃
70		グレーのポプラ(黄葉)	〃	114		武士の山狩(下絵・馬)	1905
71		グレーの秋	〃	115		武士の山狩(下絵・人物)	〃
72		山羊	〃	116		武士の山狩(下絵・人物)	〃
73		グレーの森	〃	117		武士の山狩(1/2下絵)	〃
74		グレーの森	〃	118		武士の山狩(下絵)	〃
75		グレーの教会	1901頃	119		吉野風景	〃
76		グレー風景	〃	120		加茂川風景	1905頃
77		婦人像	〃	121		森	〃
78		読書(婦人読書)	1902	122	後期	白川村	〃
79		グレー風景	〃	123		網干し	1906
80		グレー雪景	〃	124	前期	干網	〃
81		農婦(老婆)	〃	125		肖像(老母像)	〃
82		農婦	〃	126		風景	〃
83		農婦(肖像)	〃	127		海辺漁夫	〃
84		グレーの橋	〃	128		牛追い	〃
85		河畔洋館	〃	129		干網	1906頃
86		河辺の古城趾	1902頃	130		飛騨高山風景(朝陽)	1907
87		縫物(農婦)	1902	131		鹿ヶ谷(若王子風景)	〃
88	後期	冬木立	〃	132		婦人像	〃
89	後期	ナポリ	〃	133		飛騨高山	〃
90		ヴェネツィア	〃	134		木下廣次像	〃
91	前期	ベニス(裏面:ベニス)	〃	135		曼珠沙華	〃
92		にわとり	〃				
93		洋上の夕陽	〃				

特 別 展

Ⅱ. 日本画

1	槐庭時代画帖	1868
2	田植之図	1889
3 前期	松	1892
4 後期	梅	〃
5 後期	金州城外之図	1895
6 前期	ほしかき	1897頃
7 前期	狂女	1898頃
8	風景	1902~1907
9 後期	琵琶法師	〃
10	薔薇	〃
11	蜀黍と鳳仙花	〃
12	小犬	〃
13 前期	寒念仏	〃
14	剽盗図	〃
15	農馬之図	〃
16	パリ婦人散歩図	1903
17	群鹿	〃
18	山姥金時図	1904
19	ライオンの図	〃
20	美人図	1904頃
21	鬼ヶ島	1905
22 後期	追儼	1906
23	雪中馬	〃
24	当世風俗歌合〈38図〉	〃
25	参詣	1906~1907
26	貼交屏風	1907
27	象	〃
28	秋山大原女	〃
29	蝦蟇仙人図	〃
30	鍾馗図	〃

Ⅲ. 工 芸

1	鳳凰飾皿	1901
2	急須（風景）	1902~1907
3	農家風俗手塩皿 [10枚]	〃
4	梅花図筒形花生	〃
5	向付 [5客]	〃
6	向付 [5客]	〃
7	湯呑（鯉，蟹，兎）[3客]	〃
8	花瓶（白樺）	〃
9	猿蟹合戦図茶器	〃
10	高瀬川曳舟図陶板	〃
11	雛形香合 [1組]	〃

12	エジプト模様湯呑 [5客]	1902~1907
13	大原女図湯呑	〃
14	農家と牛図湯呑	〃
15	動物図小皿(キリン，カモシカ)[2枚]	〃
16	動物図四方小皿 [5枚]	〃
17	白樺・楓図絵皿	〃
18	草花盆 [5枚]	1902頃
19	鶏蒔絵文庫	1906
20	用箋筥「静々」	1907
21	すみれ模様吸物椀 [10客]	〃
22	七福神蒔絵菓子器	1909
23	遊魚菓子器	〃
24	牽牛花蒔絵手筥	〃
25	絵変わり菓子皿 [5客]	〃
26	白川女図小手筥	〃
27	ばら模様茶托 [5客]	1902~1909
28	農婦像	1902~1907
29	裸婦座像	〃
30	お福の像	〃
31	仙人（羅漢）	1903
32	ライオン	1906

Ⅳ. 図 案

1	けしの花	1900~1902
2	鳳凰・波に千鳥	〃
3	鶏（2種）	〃
4	グレー風景（2種）	〃
5	花瓶	1902~1907
6	南国風景	〃
7	雲のある風景	〃
8	溪流	〃
9	けし・猫	1906
10	猪	1906~1907
11	すみれ・ばら	1907
12	花	1902~1907
13	ダチヨウ図	〃
14	花木	〃
15	木かげの女	〃
16	魚	〃
17	春日野	〃
18	ひまわり	〃
19	蜀黍	〃
20	女神	〃
21	飾り戸棚	〃

22	秋海棠	1902~1907	34	海浜風景（2種）	1902~1907
23	波	〃	35	塩屋之図	〃
24	萩	〃	36	芝居見物	〃
25	さや豆	〃	37	高瀬川曳舟図	〃
26	花	〃	38	大津絵図（12種）	〃
27	雨中狐	〃	39	大原女	〃
28	にわとり	〃	40	大原女	〃
29	春風	〃	41	風俗図	〃
30	鶏合せ	〃	42	美人図	〃
31	寒山拾得	1906	43	参詣	〃
32	象上黒人	1902~1907	44	万歳	1907頃
33	比叡山	〃			

※ 前期 6月6日～6月21日／後期 6月23日～7月12日の展示

※ 洋41「樋口大尉小児を扶くる図」は6月6日～7月5日のみの展示

※ 作品名がゴシック体の作品は千葉県立美術館所蔵

〈所蔵機関等〉（五十音順）

愛知県美術館	19
石橋財団ブリヂストン美術館	62, 84, 87, 90
茨城県近代美術館	21
大阪府立中之島図書館	111, 112, 113
神奈川県立近代美術館	50
財団法人木下美術館	108
京都工芸繊維大学美術工芸資料館	101, 114, 115, 116, 117, 118, 日29, 工4, 工22, 工24, 工25
京都国立近代美術館	65, 94, 日10, 日23, 工19, 工20, 工29
京都市美術館	45, 63, 102, 131
京都大学附属図書館	134
宮内庁三の丸尚蔵館	41
郡山市立美術館	1, 12, 17
佐倉市立美術館	35, 92
財団法人泉屋博古館	66, 74, 85, 86, 104, 106, 127
台北市士林国民小学	43
東京国立博物館	22, 27, 42, 51, 58, 59, 60, 64, 70, 76, 77, 78, 80, 88, 89, 91, 95, 99, 122, 124
東京都現代美術館	日27
トリノ市近代美術館	2, 3
町立久万美術館	130
財団法人中野美術館	25, 123, 126
新潟県立近代美術館	29
ひろしま美術館	18

55	コンスタン・トロワイヨン	河辺の道	1860-65年頃	86	エミール・シャルル・ランビネ	釣り人	
56	〃	えさの時間		87	アドルフ・アピアン	リクス近郊の夕べ	1864年
57	〃	川で水を汲む人々	1860年頃	88	オーギュスト・ラヴィエ	モレストル風景	
58	ジュール・デュプレ	ベリー地方の農家	1833-35年頃	89	〃	モレストルの谷	
59	〃	グレヴィルの海岸	1840-45年頃	90	アントニオ・フォンタネージ	十月、牧場の夕べ	1860年
60	〃	森の中ー夏の朝	1840年頃	91	〃	牛を追う農婦	1862年頃
61	〃	森のはずれ	1860-69年頃	92	〃	森の空地の農婦	1865年頃
62	〃	大きな柏の木	1880-89年頃	93	ルイ・エメ・ジャビー	羊を連れ帰る羊飼	1884年
63	〃	嵐の前		94	レオン・リシェ	小川で釣りをする人	1869年
64	ギュスターヴ・クールベ	山間の滝	1866-70年頃	95	アルフレッド・ドクニフ	春の水辺	1875年頃
65	〃	雪の中の小鹿	1869年頃	96	アレクサンドル・ドフォー	森の中での休息	1871年
66	〃	サントーバンの海	1872年	97	〃	羊飼いと羊の群れ	
67	〃	風景	1875-77年頃	98	〃	羊の番	
68	シャルル・ジャック	鶏		99	〃	パー・ブレオーの十字路と牛と羊の群れ	1864年
69	〃	羊の群れ	1870-80年頃	100	フェルディナン・セラマノ	羊飼いと羊の群れ	
70	〃	木の下で憩う羊飼いと羊の群れ		101	サミュエル・ラヴィエ	森の中の沼	
71	〃	森の中	1871年	102	ジョゼフ・アルビニー	小屋のある夏の風景	1888年
72	〃	池で牛に水を飲ませる羊飼		103	〃	村へ続く道にいる人影	1882年
73	〃	豚を追う男	1890年	104	ルネ・ヴェロン	サンリスの池	1875年
74	フランソワ・ドービニー	ヴァルモンドワの小川	1844年	105	レオンス・シャブリイ	羊の群れを連れ帰る羊飼	
75	〃	オワーズ川のほとり	1865年	106	ローザ・ボヌール	猪	
76	〃	マントのセーヌ川	1870年	107	ルネ・ジョゼフ・メナール	バルビゾン近くの牧場	1850年頃
77	〃	川のそばで休息する羊飼	1877年	108	カミーユ・デルビー	川辺ー夏	
78	〃	かわいいロバ		109	ジュリアン・デュプレ	羊飼いと羊の群れ	
79	〃	二人の農婦		110	フリードリッヒ・マリ	羊の飼育	1879年
80	〃	土手の上の林	1852年	111	カール・ドービニー	田園の夕暮れの印象	
81	レオン・デュプレ	田園風景		112	エマニュエル・ダモワ	川辺で洗濯する農婦たち	1872年
82	〃	沼地で休息する羊飼いの少年	1846年	113	〃	お花畑	1897年
83	〃	田園の羊の群れ	1854年	114	アントワーン・ヴァロン	モンマルトルの丘	
84	フランソワ・ルイ・フランセ	木陰の水浴	1861年	115	シャルル・カザン	川辺の夕日	
85	アントワーン・シャントルイス	風景					

〈所蔵先機関等〉

栃木県立美術館	No.12
村内美術館	No.36
山寺後藤美術館	No.2, 6, 14, 52
山梨県立美術館	No.3, 48, 51, 60

※作品名がゴシック体の作品は、

千葉県立美術館所蔵作品

房総の美術家シリーズ(25)

木村和一展 ―染の世界―

会 期 平成10年 9月5日(土)～
10月11日(日) 32日間

展示点数 111点

入場者数 13,051人

企画展〈房総の美術家シリーズ〉は、房総に生まれ、あるいは定住して近代日本の美術界で活躍し、美術振興のために貢献した美術家たちの再発見と顕彰を目的とした展覧会である。

今回は、昭和初期の工芸運動のリーダーのひとりとして活躍し、鴨川に在住した染色工芸家・木村和一(1888～1963)に焦点を当て、作品66点と関係資料により、これまでほとんど紹介されることのなかった彼の‘人と芸術’を再発見した。



I. 作 品					
No.	作 品 名	制作年			
1	少女華文和染衝立	1936	25	春景図小屏風	1955頃
2	葡萄図六曲屏風	1926～1944	26	海女三笑	1956頃
3	花と虫(帯)	1937	27	熊鷹	1958
4	弁柄地名古屋帯	1937頃	28	梅	1959
5	風呂先屏風	1939	29	寒牡丹図小屏風	〃
6	立葵模様壁掛	〃	30	梅	1955～1963
7	和染小屏風野菜譜	〃	31	熊鷹(秋景)	〃
8	雛人形染軸	〃	32	海中図染額	〃
9	鍾馗図染軸	〃	33	新緑図染額	1955～1963
10	柿桃笹図テーブル掛	〃	34	秋景図染額	〃
11	座布団(三友模様)	〃	35	紅白梅図屏風	〃
12	草花図染額	〃	36	紫陽花図小屏風	〃
13	燕子花・八橋図衝立	1949頃	37	鶴図小屏風	〃
14	地紙文衝立	〃	38	鶴図小屏風	〃
15	農婦	〃	39	海女	〃
16	波図小屏風	〃	40	海女壁掛	〃
17	鷹	1950	41	秋景図染軸	〃
18	鼠地牡丹文名古屋帯	1946～1954	42	草花図染額	〃
19	鼠地薔薇文名古屋帯	〃	43	流水春景図屏風	〃
20	金地花本文名古屋帯	〃	44	立葵図小屏風	〃
21	朝顔図小屏風	〃	45	風炉先屏風	〃
22	伎楽面模様壁掛	1954	46	霞小紋着物	〃
23	伎楽面模様壁掛	〃	47	茶地海の幸文名古屋帯	〃
24	春景図壁掛	1954頃	48	藍地陶器模様着物	〃
			49	山吹色牡丹文名古屋帯	〃
			50	銀鼠地魚文名古屋帯	〃

51	山吹色魚文名古屋帯	1955~1963	14	九科会第1回展覧会目録	1926
52	亀甲花文帯地	〃	15	『実用手工芸大講座 女子部』	1925
53	牡丹文壁掛	〃	16	第1回工芸美術展覧会出品目録	1926
54	海	〃	17	无型第5回展覧会目録	1931
55	漁村	〃	18	无型第6回展覧会目録	1932
56	農婦	〃	19	实在工芸美術会同人 作品展覧会案内葉書	1937
57	海女	〃	20	『家庭科学大系(37)染色の理論と実際』	1927
58	海女	〃	21	『工芸美術を語る』	1930
59	羅漢	〃	22	新興染織工芸陳列会目録	1934
60	観音	〃	23	染人社第3回展覧会案内葉書	1947
61	草花図染額	〃	24	染人社小品展案内葉書	1949
62	梅	〃	25	第7回染人社工芸展案内葉書	1951
63	筍と椎茸	〃	26	日本染織作家集団声明	1955
64	静物	〃	27	日本染織作家集団第1回展覧会	〃
65	和装用ハンドバッグ	〃	28	日本染織作家集団現代染織工芸展案内葉書	1956
66	和装用ハンドバッグ	〃	29	染彩画展作品集ほか	1960ほか
			30	長浜重太郎染色額面頒布会目録	1949以前
			31	原稿「長浜君の人と作品」	
			32	十束敏染色工芸展目録	1956
			33	木村和一作品頒布会目録	1962頃
			34	歌集	1913
			35	工房雑記	1927~1944
			36	龍光山房句集	1946
			37	昭和貳拾参年度日記	1948
			38	木村和一写生帖	1926~1944
			39	木村和一自用印	1926~1963
			40	木村和一使用染色用具	
			41	下図〔早春(紅白和染壁掛)〕	1929頃
			42	下図〔染色獅子舞二曲屏風〕	1933頃
			43	下図〔花と虫〕	1937頃
			44	下図各種	1926~1963

Ⅱ. 資 料

No.	資 料 名	年代		
1	木村和一氏染物作品展覧会目録	1924		
2	木村和一書簡(渡辺進宛)	〃		
3	染色科教習録	1922		
4	農民美術始業記念色紙	1923		
5	倉田白羊「一切録」	〃		
6	農美(回覧雑誌)	〃		
7	農民美術研究所事業計画	1924		
8	『農民美術』1巻2号	〃		
9	財団法人日本農民美術研究所概要	1925		
10	八月会々名簿	〃		
11	東京府主催副業品製作講習会計画	1926		
12	旅費精算書	1927		
13	九科会の趣意／九科会規定	1925		

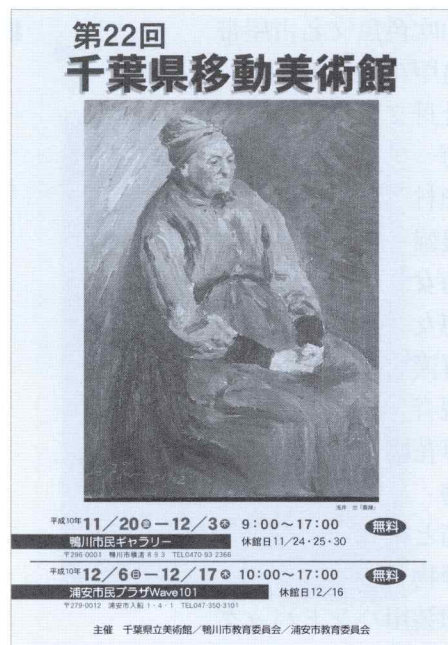
〈資料の所蔵機関〉

東京都現代美術館	2, 13, 14, 16
上田市山本鼎記念館	3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12
国立国会図書館	15, 21, 22

第22回千葉県移動美術館

会 場	1	鴨川市民ギャラリー
	2	浦安市民プラザWave101
会 期	1	平成10年11月20日(金)～ 12月3日(木)
	2	平成10年12月6日(日)～ 12月17日(木)
展示点数	39点	
入場者数	1	583名
	2	451名

本館の収蔵作品を中心に、第50回千葉県美術展覧会(県展)の受賞作品を一部加えた移動展覧会を、上記の期間及び会場で開催し、美術作品を身近に鑑賞できる機会を提供した。



〈日本画〉

1	関 主税	滝	
2	富取 風堂	朝光	1931
3	松尾 敏男	原野	1971
4	横尾 芳月	澄心	1980

〈洋 画〉

1	浅井 忠	農婦	1902
2	石橋 武治	白鷺のいる風景	1953
3	梅原 龍三郎	竹窓読書図	1937
4	黒田重太郎	女と小犬	1928
5	小林 数	アマダブラム峰(ヒマラヤ)	1984
6	櫻田 精一	冬の並木道	1965
7	篠崎 輝夫	絵馬による	1976
8	鱸 利彦	房州伊豫ヶ岳	1970頃
9	高橋 規矩治郎	滞船	1970
10	椿 貞雄	鋸山から見た房総半島	1948
11	鶴田 吾郎	朝日連峰	1951-54
12	都鳥 英喜	洛北の早春	1934

〈彫 刻〉

1	高村 光太郎	手	1918
2	長谷川 昂	砂遊び	1997
3	舟越 保武	婦人像	1985
4	本郷 新	裸婦	1952

〈工 芸〉

1	会田 富康	青銅双鳥置物	
2	秋山 逸生	木画箱	1969
3	香取 秀真	烏銅鳳凰香炉	1911
4	鈴木 治平	湿原の詩	1985
5	藤田 喬平	飾篭・しだれ櫻	〃
6	山本 正年	瑞光	

〈書〉

1	浅見 喜舟	麟出鳳翔	1973
2	金子 聴松	視思明	〃
3	小暮 青風	石見の海	1979
4	高澤 南総	墨縁	〃

〈版 画〉

1	池田 満寿夫	ウエルカムB	1969
2	池田 良二	Scattered Seeds	1979
3	東山 魁夷	リトグラフィ集「冬の詩」湖岸	〃
4	〃	〃	冬華 〃
5	〃	〃	樹氷 〃
6	星 襄一	陽(林)	1978

第50回千葉県美術展(県展) 出品作品

1	實方 晶子	サバンナ(日本画・県展賞)	1998
2	土橋 豊	ギリシャ神話(ニケ)(洋画・県展賞)	〃
3	霊園 鴻甫	近作二首(書・県展賞)	〃

普及事業

美術講演会を、展覧会に併せ2回開催した。

さらに、特別展「自然を描くーミレーとバルビゾン派の画家たち」会期中に、ミュージアムコンサート「木管五重奏による名曲の調べ」を開催した。

実技講座は、日本画、洋画、彫刻（木彫）、陶芸、金工、書、版画の7種7講座（延67日）を開催した。

図書は、191冊収集した。現在5,168冊を収蔵し、情報資料室において県民の利用に供している。

そのほか、友の会事業による実技講座3種9講座（延50日）、美術鑑賞の旅等をはじめ、博物館実習生の受け入れ（6大学8人）などに協力した。

■ 美術講演会

美術に対する関心や理解を一層深めるため、特別展に併せて講演会を実施した。

1回目の「浅井忠の人と芸術」では、浅井忠の生涯の活動をはじめ、会場に展示してある作品を中心に、表現された芸術の特徴など多彩な視点による講演が行われた。

2回目の「風景画の流行はだれが作ったか」では風景画の歴史やミレーの作品及び画業等について、エピソードなどを交えた幅の広い内容の講演が行われた。

また、各講師ともスライドを用いて講演された。

- 1 6月20日（土）
「浅井忠の人と芸術」 216人
島田康寛（京都国立近代美術館学芸課長）
- 2 1月16日（土）
「風景画の流行はだれが作ったか」 234人
馬淵明子（日本女子大学教授）
(数字は参加者数)



■ ミュージアムコンサート

特別展「自然を描くーミレーとバルビゾン派の画家たちー」の開催に併せ、「木管五重奏による名曲の調べ」と題して、1月9日、ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉のメンバーによりコンサートを行った。

モーツァルト（ディヴェルティメント第14番）やビゼー（子どもの遊び）などのクラシックの名曲や、ミヨー（ルネ王の暖炉）などの映画音楽を含む全8曲を演奏し、好評を得た。

〈演奏者・司会〉

金子博陽（フルート）／姫野 徹（オーボエ）／平野吉彦（クラリネット）／神山 純（ファゴット）／大森啓史（ホルン）／中里かほり（司会）

参加者数 204人



■ 実技講座

(1) 洋画講座

期 日 平成10年 5月12日(火)・13日(水)・
15日(金)・16日(土)・19日(火)・
22日(金)・23日(土)・26日(火)・
27日(水)

(9日間／うち講師の指導日数は5日間)

講 師 羽生智樹氏

受講者数 29人

内 容 着衣と裸婦をテーマにデッサン、構図、彩色など油彩画の基礎的技法を学んだ後、より幅広い表現について学習した。

(2) 日本画講座

期 日 平成10年 6月4日(木)・5日(金)・
6日(土)・7日(日)・9日(火)・
10日(水)・11日(木)・13日(土)・
14日(日)・17日(水)・18日(木)・
19日(金)

(12日間／うち講師の指導日数は7日間)

講 師 棚橋文子氏

受講者数 20人

内 容 花、果物、人物等のモチーフにより制作した。岩絵具、にかわ、筆、紙等の材料・用具の取り扱い方など基礎的な学習をした後、彩色の技法を中心に学習した。

(3) 陶芸講座

期 日 平成10年 6月23日(火)・24日(水)・
25日(木)・7月10日(金)・14日(火)・
15日(水)・16日(木)・30日(木)・
8月6日(木)

(9日間／うち講師の指導日数は5日間)

講 師 鎗田和平氏

受講者数 30人

内 容 信楽土を素材として、花瓶、食器、茶碗などを制作した。また、染付や鉄絵などの絵付けや彩土による装飾のほか、ろくろ技法、釉薬調合、窯詰めなどについても併せて学習した。

(4) 版画講座

期 日 平成10年11月18日(水)・19日(木)・
20日(金)・21日(土)・22日(日)・
25日(水)・26日(木)・27日(金)・
28日(土)・12月1日(火)・2日(水)・
3日(木)

(12日間／うち講師の指導日数は7日間)

講 師 増田陽一氏

受講者数 19人

内 容 銅板、亜鉛板を素材に、凹版画の制作を行った。版画の材料や用具の取り扱い方、エッチングやアクワチントなどの各種技法や刷りの技術について学習した。

(5) 彫刻講座

期 日 平成10年 8月26日(水)・27日(木)・
28日(金)・9月2日(水)・3日(木)・
4日(金)・8日(火)・9日(水)・
11日(金)・12日(土)

(10日間／うち講師の指導日数は6日間)

講 師 福永 巨氏

受講者数 20人

内 容 米松を素材に、動物や人物、抽象形態など自由に制作した。のみやチェーンソー等の各種工具類の取り扱い方を学び、木の彫刻技法の幅広い表現方法を学習した。

(6) 書講座

期 日 平成10年12月8日(火)・9日(水)・
10日(木)

(3日間／うち講師の指導日数は3日間)

講 師 宇津木雀聲氏

受講者数 26人

内 容 漢字・かなの臨書を通して、書の歴史、書の味わい方、様々な表現方法を学習した。また、手紙やはがきの書き方などの実用書道も学習した。

(7) 金工講座

期 日 平成11年 2月16日(木)・17日(金)・
18日(火)・20日(水)・21日(木)・
24日(金)・25日(火)・27日(水)・
28日(木)・3月2日(火)・3日(水)・
4日(木)

(12日間／うち講師の指導日数は7日間)

講 師 小林正利氏

受講者数 24人

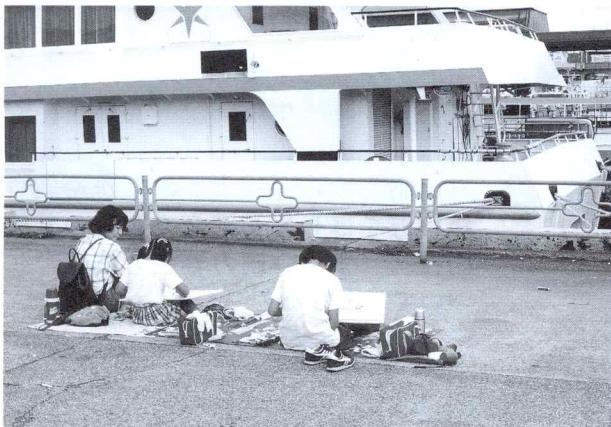
内 容 動物・人物・生物・風景など自由なテーマで銅板レリーフの制作を行った。脂台や各種タガネの製作や取り扱い方をはじめ、鍛金や彫金の基礎的技法、また金属の着色方法などについて学習した。

■ 第3回こども写生会

千葉県立美術館では、次代を担うこどもたちに、創作の喜びを体験してもらうとともに、美術館との触れ合いを通して、美術館活動に対する理解を深めてもらうため、写生と展示による「こども写生会」を開催した。

写生会 6月27日(土) 参加者数 100人
 展覧会 7月22日(水)～26日(日)
 表彰式 8月25日(土)

最優秀賞 千葉大学教育学部附属小学校
 第2学年 山岸未弥
 優秀賞 千葉市立大森小学校
 第2学年 児玉隼人
 浦安市立日の出小学校
 第3学年 森圭史
 八街市立朝陽小学校
 第4学年 成田茉奈実
 袖ヶ浦市立蔵波小学校
 第5学年 高橋千恵
 成東町立緑海小学校
 第6学年 渡辺陽子
 努力賞 千葉市立金沢小学校
 第1学年 田中美祐
 船橋市立薬門台南小学校
 第2学年 丸山祐貴
 千葉大学教育学部附属小学校
 第3学年 入江香月
 千葉大学教育学部附属小学校
 第4学年 須藤友理江
 市川市立平田小学校
 第5学年 秋山圭
 大網白里町立増穂北小学校
 第6学年 高取飛鳥



■ 情報資料室

毎週火～金曜日(祝日・休館日を除く)12時30分～4時30分に開室し、県民の方々の美術情報資料(図書、雑誌、図録、新聞等)の利用に供した。また、各地の展覧会やイベントについて、資料室前のロビー等でポスター、チラシ、ポストカード、情報誌などにより、美術情報を提供した。なお、10年度の収蔵図書については134冊を購入し、57冊の寄贈を受け、美術情報資料の充実を図った。

分類別図書数

(平成11年3月31日現在)

区 分	平成9年度まで	平成10年度	計
美術総記	1,524	84	1,608
絵画	1,484	48	1,532
彫刻	249	3	252
工芸	362	12	374
書	162	2	164
版画	127	18	145
デザイン・建築	77	7	84
写真・映像	180	1	181
その他	45	5	50
雑誌(合冊・復刻)	357	0	40
一般図書	410	11	421
合 計	4,977	191	5,168

区 分	平成9年度まで	平成10年度	計
購入図書	2,733	134	2,867
寄贈図書	2,244	57	2,301
合 計	4,977	191	5,168

(展覧会図録を除く)

■ 活動協力

□ 千葉県立美術館友の会

1. 目的

“みる・かたる・つくる”という美術館活動に積極的に協力し、楽しい雰囲気の中で、教養を豊かにし、美術文化の向上をはかり会員相互の親睦を深める。

2. 組織

- (1) 会員数 個人会員546人 賛助会員2人
- (2) 役員 名誉会員10人 会長1人 副会長3人
監事2人 理事若干名

3. 事業

(1) 友の会だより「しおさい」の発行、年4回。
各1000部印刷し、会員に配付した。

(2) 第22回葉美会展の開催

会 期 平成10年8月25日(火)～30日(日)

出品者40人 展示点数67点

(3) 秋の美術鑑賞の旅

美術品や文化財を訪ねながら、親睦を深めるために実施した。

1・日 時 10月8日(木)

2・行 先 板谷波山記念館

宇都宮美術館

栃木県立美術館

栃木県立博物館

鹿沼市立川上澄生美術館

3・参加者数 49人

(4) 館事業への協力

館に協力して、特別展等の図録販売・実技講座の開催のほか、講演会など県民アトリエ事業に積極的に参加した。

(5) その他

テレホンカード・絵葉書・額縁・額絵・図書等の販売

4. 平成10年度 友の会実技講座

洋画入門講座(1)

期 日 4月30(木)・5月1(金)・2(土)・6(水)・7(木)・9(土)(6日間)

講 師 根岸茂行氏

受講者数 33人

洋画入門講座(2)

期 日 6月6日(土)・7(日)・13(土)・14(日)・20(土)・21(日)(6日間)

講 師 池田敏男氏

受講者数 22人

洋画入門講座(3)

期 日 7月3(金)・4(土)・5(日)・7(火)・8(水)・9(木)(6日間)

講 師 渡辺 晋氏

受講者数 38人

洋画入門講座(4)

期 日 8月18(火)・19(水)・21(金)・22(土)・23(日)・25(火)(6日間)

講 師 根岸茂行氏

受講者数 36人

洋画入門講座(5)

期 日 10月23(金)・24(土)・25(日)・27(火)・28(水)・29(木)(6日間)

講 師 松沢茂雄氏

受講者数 63人

洋画入門講座(6)

期 日 12月4(金)・5(土)・8(火)・10(木)・12(土)・13(日)(6日間)

講 師 根岸茂行氏

受講者数 31人

日本画入門講座

期 日 11月4(水)・5(木)・6(金)・7(土)・10(火)・11(水)(6日間)

講 師 齊藤 惇氏

受講者数 18人

デッサン入門講座(1)

期 日 7月28(火)・29(水)・31(金)・8月1(土)(4日間)

講 師 御園正男氏

受講者数 27人

デッサン入門講座(2)

期 日 2月3(水)・4(木)・5(金)・9(火)(4日間)

講 師 根岸茂行氏

受講者数 37人

□博物館実習

各大学の依頼により、学芸員資格取得希望の学生を下記のとおり受け入れた。

平成10年7月21日(火)～7月27日(月)

(日曜日を除く6日間)

学習院大学2人、実践女子大学1人、千葉経済大学1人、東京工芸大学1人、トキワ松学園横浜美術短期大学1人、明治学院大学2人

(計6大学、8人)

貸出資料一覧

作家名	作品名	出陳展覧会名	会期・展示会場	貸出先
齋 藤 惇	五台山大白塔	佐倉・房総ゆかりの画家	10.4/15～5/24 佐倉市立美術館	佐倉市立美術館
椿 貞 雄	自画像	画文交響 —飯田蛇笏をめぐる画人たち—	10.4/25～6/28 山梨県立文学館	山梨県立文学館 山梨県立美術館
高 山 宇 一	波濤の歌	高山宇一華寿記念展	10.4/29～5/17 東京国際美術館	東京国際美術館 七戸町立高山宇一記念館
東 山 魁 夷	門	東山魁夷展	10.5/16～6/21 富山県立近代美術館 10.6/27～8/2 千葉市美術館	富山県立近代美術館 千葉市美術館
石 井 柏 亭 安 井 曾太郎	老々々 安倍川 聖フランチェスカ寺院 信州風景 熱海付近	中村善策の人脈	10.6/6～7/26 市立小樽美術館	市立小樽美術館
石 井 雙 石	一笑百印 養心主鉢 故弄諷流	毎日書道展第50回記念 「現代の書50年」展	10.7/8～7/19 上野の森美術館 10.7/25～7/30 京都市美術館	毎日新聞社
中 西 利 雄	南仏風景 トリエール・シュル・セヌ 曇り日の離宮と駅	中西利雄展	10.8/6～9/6 静岡アートギャラリー	静岡アートギャラリー
和 田 英 作	塚本清肖像 絵葉書「富士図」 絵葉書「達磨モザイク図」 絵葉書「少女図」 絵葉書「塚本清像」 絵葉書「ひまわり」	和田英作展	10.8/1～9/20 静岡県立美術館 10.10/1～11/3 鹿児島市立美術館	静岡県立美術館 鹿児島市立美術館
信 田 洋	透壺 赤銅張小宮	佐倉・房総ゆかりの画家	10.8/8～10/2 佐倉市立美術館	佐倉市立美術館
椿 貞 雄	牡丹	院展にみる山形の100年展	10.9/4～9/27 天童市美術館 10.10/2～10/25 致道博物館 10.10/30～11/23 山形美術館	天童市美術館 致道博物館 山形美術館
中 西 利 雄	人物 四人の女	没後10年 小磯良平展	10.9/12～11/8 兵庫県立近代美術館	兵庫県立近代美術館 神戸市立小磯記念館 神戸新聞社
ル ソ ー ド ー ビ ニ ョ ン	バルビソンの農場 ヴァルモンドワの小川 河辺の道	自然に帰れ—ミレーと農民画—	10.9/15～12/6 山梨県立美術館	山梨県立美術館
足 立 源 一 郎	カーニユにて（オリーブ畑）	パストロンと芸術家	10.9/19～11/3 群馬県立近代美術館	群馬県立近代美術館
安 井 曾 太 郎	熱海付近	生誕110年記念 安井曾太郎展	10.9/23～10/19 千葉そごう美術館 10.10/22～11/3 京都高島屋 10.11/13～12/13 そごう美術館	千葉そごう美術館 京都高島屋 そごう美術館
津 田 信 夫	一點玲瓏	〈かたちの領分〉 —機能美とその転生—	10.10/3～11/23 東京国立近代美術館	東京国立近代美術館
浅 井 忠 石 井 柏 亭 石 井 欽 一郎 大 河 後 丸 下 合 藤 山 晚	フォンテンブローの森 病児 水辺 久々子湖 春の日 ダリア 長野水内風景	丸山晩霞と日本の水彩画の流れ	10.10/9～11/8 長野県信濃美術館	長野県信濃美術館
立 石 秀 春		第50回県展	10.10/17～10/30 千葉県立美術館	立石秀春
浅 井 忠	葎屋根 フォンテンブローの夕景 婦人像 花木 魚 飾り戸棚	意味とイメージ	10.10/17～11/23 和歌山県立近代美術館	和歌山県立近代美術館
秋 元 恒	高生垣の家	秋元恒作品展	10.10/23～10/28 朝日ギャラリー	秋元恒
浅 井 忠 田 中 善 之 助	パリの公園 パリの女	京都の100年・パリの100年	10.11/3～11.1/17 京都市美術館	京都市美術館 京都新聞社
東 山 魁 夷 松 尾 敏	春雪 歷程	戦後日本画の歩み	10.11/14～12/13 鳥取県立博物館	鳥取県立博物館
板 倉 花 巻	春水満四澤	生誕100年・没後30年記念展 天衣無縫の書家 板倉花巻展	10.11/28～11.1/17 茂原市立美術館	茂原市立美術館
フォンタネージ タ ー ル ベ	川辺の二頭の牛 雪の中の小鹿	風景の見え方	10.12/13～11.1/28 川村記念美術館 11.1/30～3/30 川村記念美術館	川村記念美術館
大久保 作次郎 都 鳥 英 喜	庭の木陰 婦人像	日本の印象派	11.2/4～3/14 下関市立美術館	下関市立美術館
若 木 山	波上海女図	日本美術院創立100周年記念展	11.2/28～4/8 福岡三越ギャラリー	日本美術院 西日本新聞社
浜 口 陽 三	赤い蝶 ロビーナのさくらんぼ 青い蝶 青い蝶 てんとう虫 3匹の蝶 3匹の蝶 カリフォルニア・チェリー カリフォルニア・チェリー 緑のボグラ 緑のさくらんぼ 青紫色の蝶	浜口陽三展	11.3/7～4/4 佐倉市立美術館	佐倉市立美術館
関 小 堀 主 税 進	潤声 迎光	青の表現 —歌会始御題にちなみ—	11.3/10～4/11 式年遷宮記念神宮美術館	式年遷宮記念神宮美術館
石 井 雙 石	種竹齋 陶犬瓦鶏 午睡 故人今人如流水 虎威將軍章 南極大守 五里霧中 平仙 醉郷侯印 非心非佛 春晚落華餘碧草 木弟羊 清風明月醉時歌 雙松在前軒 Tiger 左思右考 人盡樂 一笑百印 借宅亦種竹 虎威將軍章 人生一葉 清風自來 一笑百印由來	篆刻の巨匠 石井雙石	11.3/13～3/22 かつしかシンフォニーヒルズ	葛飾区文化振興財団

調 査 ・ 収 集 事 業

展覧会企画や資料収集等に関連して、調査研究を進めた。資料収集については、日本画6点、洋画17点、工芸4点、書7点を新たに収蔵した。

この他、基金により洋画9点を購入した。

■ 収蔵資料 (寸法は、平面作品は縦×横、立体作品は高さ×幅×奥行で表示、)
単位はcm、番号に○印のあるものは購入。

〈日本画〉

- 1 大岩成徳 玉蜀黍
1980
絹本彩色 116.7×90.9
- 2 大岩成徳 南天に小禽
1982
絹本彩色 116.7×90.9
- ③ 富取風堂 霜汀
1936
絹本彩色 181.0×205.0
- 4 富取風堂 雀と桃
紙本着彩 31.3×47.5
- 5 富取風堂 猫とかに
絹本彩色 38.7×50.5
- 6 富取風堂 富士
紙本着彩 42.7×47.8

〈洋画〉

- ① 浅井 忠 本所風景
1878頃
紙・鉛筆 11.7×19.3
- ② 浅井 忠 朝鮮大同門図
1894
紙・鉛筆/ペン/水彩 23.7×30.7
- 3 大野隆徳 隅田川
1929
キャンパス・油彩 30.5×39.5
- 4 大野隆徳 李朝の鉢と金魚
1934
キャンパス・油彩 36.6×44.0
- 5 大野隆徳 香遠亭
キャンパス・油彩 48.5×59.0
- 6 大野隆徳 ルイニ「葡萄と子供」(模写)
キャンパス・油彩 48.5×59.0
- ⑦ 小堀 進 大穹
1974
紙・水彩 84.7×122.0
- ⑧ 坂本繁二郎 海藻採りの海女
1912
紙・水彩/テンペラ 25.5×17.0
- 9 佐々木一郎 漁村(1964)
1964
キャンパス・油彩 162.0×130.0

- 10 佐々木一郎 漁村
1981頃
キャンパス・油彩 130.0×162.0
- 11 佐々木一郎 漁村(1982)
1982
キャンパス・油彩 130.0×162.0
- ⑫ 篠崎輝夫 敦煌莫高窟
1996
キャンパス・油彩 91.0×91.0
- 13 篠崎輝夫 西域残映
1997
キャンパス・油彩 162.1×162.1
- 14 前林章司 支笏湖畔
1965頃
キャンパス・水彩 72.8×91.0
- 15 前林章司 奥入瀬
1968
キャンパス・水彩 97.0×130.0
- 16 前林章司 クムジュンからのアマダプラム峰
1987
キャンパス・水彩 90.9×116.7
- ⑬ ドービニー オワーズ川のほとり
1865
キャンパス・油彩 73.7×110.5

〈工芸〉

- 1 青木滋芳 早瀬
1971頃
染色 44.0×51.6
- 2 鹿島一谷 布目象嵌白鷺四態図銀水注
1996頃
彫金 15.4×14.4×11.2
- 3 宮之原 謙 双魚花瓶
1958
陶芸 45.0×32.0×32.0
- 4 山室百世 桃花模様ランプシェード
1932
ガラス 15.0×33.2×33.2

〈書〉

- 1 板倉花巻 神情詩
1949
紙・墨 131.5×67.5

2 小 谷 碧 洞	蘭亭序 1934 紙・墨	164.5×81.5	② 浅 井 忠	瀨家邨天長節祝宴 1894～95頃 紙・水彩	18.5×32.0
3 小 谷 碧 洞	輝虎賦詩 1935 紙・墨	273.5×69.0	③ ジョルジュ・ピゴー	稲毛の女漁師と子ども 1892～97頃 板・油彩	24.0×32.0
4 種 谷 扇 舟	龍虎 1997 紙・墨	500.0×192.0	④ ジョルジュ・ピゴー	稲毛の夕焼け 1892～97頃 板・油彩	20.0×29.0
5 種 谷 扇 舟	靈峰 1997 紙・墨	500.0×192.0	⑤ ジョルジュ・ピゴー	稲毛村のわがアトリエ 1892～97頃 キャンパス・油彩	42.0×54.0
⑥ 千代倉 桜 舟	いろはうたの構築 1984 紙・墨／四部連	216.0×266.0	⑥ ジョルジュ・ピゴー	女漁師 1892～97頃 板・油彩	27.0×25.0
7 外 口 静 葉	白楽天詩「晏起」 1955～64頃 紙・墨	174.7×83.5	⑦ ジョルジュ・ピゴー	岸壁の二人 1892～97頃 厚紙・油彩	21.0×27.0
			⑧ ジョルジュ・ピゴー	二人の漁師 1892～97頃 板・油彩	14.0×22.0
			⑨ ジョルジュ・ピゴー	漁師と舟 1892～97頃 板・油彩	27.0×39.0

＜千葉県美術品等取得基金＞

① 浅 井 忠	グレーの塔 1901 紙・水彩	35.5×24.8
---------	-----------------------	-----------

◆収蔵資料数一覧

平成11年3月31日現在

種別	受入方法	購 入	寄 附	保 管 換	合 計
日 本 画		125	139	25	289
洋 画		344	402	42	788
彫 刻		82	25	11	118
工 芸		142	115	10	267
書		110	101	14	225
版 画		152	53	5	210
合 計		955	835	107	1,897
研 究 資 料		243	1,242	53	1,538

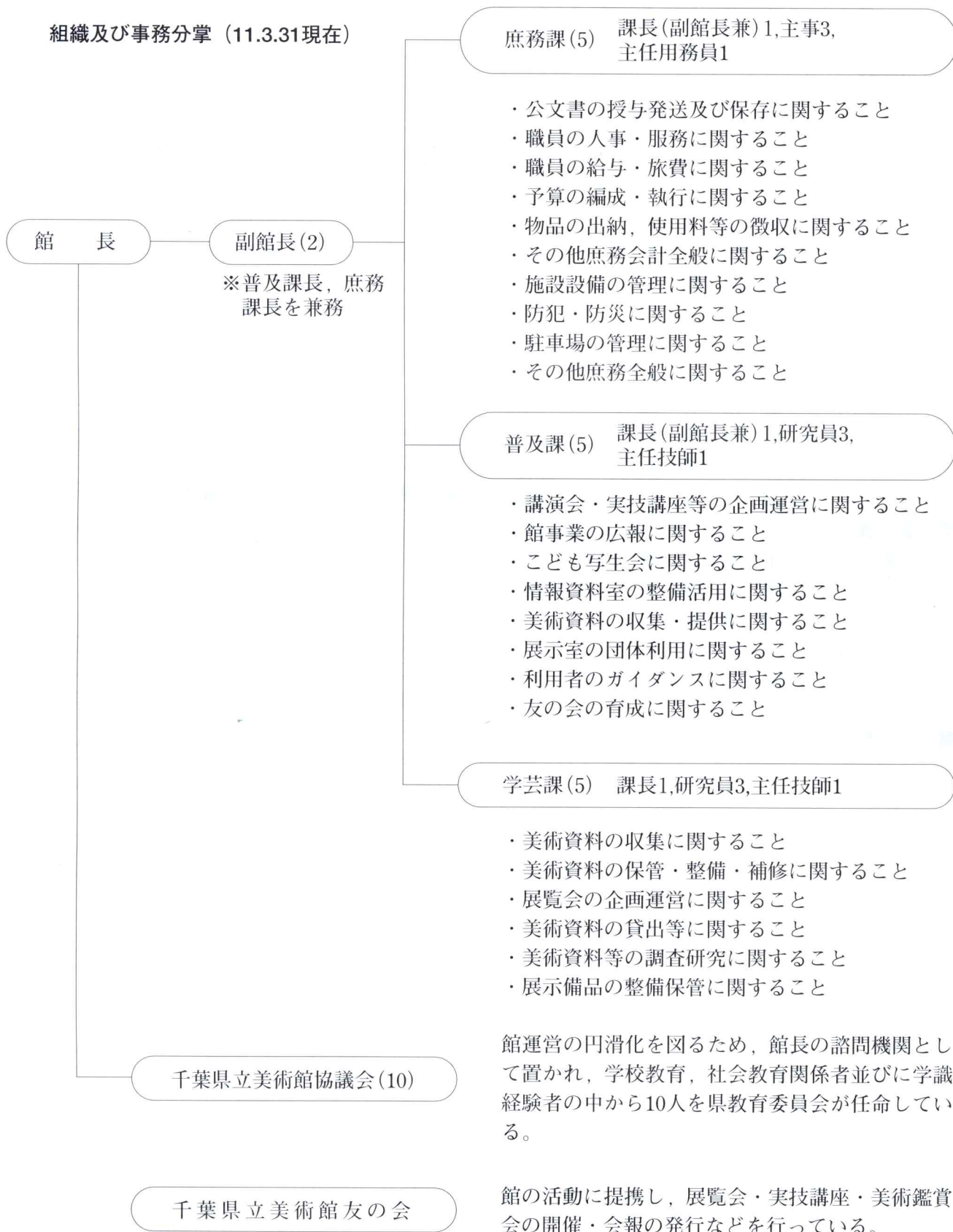
管 理 運 営

本館では県民のための開かれた明るい美術館をめざし「みる・かたる・つくる」をモットーとして、総合的、活動的な美の広場を目標として展示・普及活動を行っている。

協議会では、美術館の運営について諮問を行った。

■ 機 構

組織及び事務分掌（11.3.31現在）



■ 平成10年度職員

館長	渋谷哲成
副館長 兼普及課長	米田耕司
副館長 兼庶務課長	藤江光敏

庶務課

主事(派)	川内啓子
主事(〃)	菅生力生
主事(〃)	藤田大子
主任用務員(〃)	長島則子

普及課

研究員(派)	吉見節子
〃(〃)	金田雅成
〃(〃)	相川順子
主任技師(〃)	中松れい

学芸課

学芸課長	田坂浩
研究員(派)	椎名敦夫
〃(〃)	齋藤祐一
〃(〃)	山崎京子
主任技師(〃)	幅大

嘱託	大岩浩
----	-----

■ 県立美術館協議会委員

石崎朋夫	千葉県経営者協会専務理事
岡野輝男	日本放送協会千葉放送局長
加曾利和夫 (10.7.1～)	千葉県教育研究会造形部会長
門倉武夫 (10.7.1～)	東京国立文化財研究所名誉研究員
川津幸枝	全日本書芸文化院常任理事
久米公	大東文化大学文学部教授
齋藤志貴雄	千葉県高等学校文化連盟顧問
櫻井和一 (～10.6.30)	千葉県高等学校教育研究会美術工芸部会長
新城瑠璃	ネスコ株式会社相談役 (千葉県立美術館友の会副会長)
長谷川昂 (～10.6.30)	千葉県美術会前会長
山岸正和 (10.7.1～)	千葉県高等学校教育研究会美術工芸部会長
湯浅守彦 (～10.6.30)	千葉県教育研究会造形部会長
渡邊富雄(學) (10.7.1～)	千葉県美術会会長

■ 利用状況

入館者数一覧（平成10年度）

種別 月	開館 日数	個 人			団 体						人数 合計
		一般 成人	大・ 高生	中・ 小生	一般成人		大・高生		中・小生		
					人 数	団体数	人 数	団体数	人 数	団体数	
4	26	5,896	189	510	77	2	30	1	0	0	6,702
5	27	10,808	203	1,761	161	2	0	0	0	0	12,933
6	25	17,177	157	3,119	227	7	0	0	134	3	20,814
7	27	11,394	275	1,987	321	8	0	0	38	1	14,015
8	26	10,818	582	3,683	97	2	0	0	0	0	15,180
9	26	11,718	428	1,595	248	7	0	0	48	1	14,037
10	22	13,248	958	826	268	6	258	2	27	1	15,585
11	23	15,063	1,007	1,299	184	7	0	0	86	1	17,639
12	22	16,204	303	9,523	150	4	0	0	35	1	26,215
1	24	12,461	206	1,096	476	16	0	0	0	0	14,239
2	24	8,890	534	2,688	26	1	0	0	231	3	12,369
3	26	7,603	215	1,499	71	2	28	1	47	1	9,463
計	298	141,280	5,057	29,586	2,306	64	316	4	646	12	179,191

開館以来 総開館日数 7,125日 総入館者数 4,182,941人

地域別入館者数

種別 月	開館 日数	県 内		県 外		外 国	合 計
		千 葉 市	そ の 他	東京都	そ の 他		
4	26	3,044	2,996	211	443	8	6,702
5	27	5,721	5,922	641	649	0	12,933
6	25	10,668	9,241	478	419	8	20,814
7	27	4,534	7,401	1,001	1,049	30	14,015
8	26	6,204	7,519	365	1,072	20	15,180
9	26	4,484	7,756	913	869	15	14,037
10	22	6,576	8,011	446	544	8	15,585
11	23	6,680	10,101	341	506	11	17,639
12	22	3,905	21,631	148	519	12	26,215
1	24	5,867	7,643	388	335	6	14,239
2	24	5,503	6,221	232	411	2	12,369
3	26	3,633	5,086	225	512	7	9,463
計	298	66,819	99,528	5,389	7,328	127	179,191

■ 展示室利用団体

太字は県芸術フェスティバル事業

番号	展 覧 会 名	利用期間	展 示 内 容	出品点数
1	第35回全日本総合書道大展覧会	4/7-12	書	496
2	第9回千葉県木彫会展	4/7-12	彫刻	64
3	第22回鳳聲会書作展	4/14-19	書	231
4	第68回郷陽会展	4/14-19	洋画	111
5	第12回ガラス絵コクリコ会展	4/14-19	ガラス絵	52
6	第12回千葉水彩展	4/21-26	洋画	92
7	第25回千葉新協展	4/21-26	洋画	119
8	第24回歩会彫刻展	4/21-5/4	彫刻	44
9	MUSABI展	4/28-5/4	日本画・洋画・工芸・立体・その他	32
10	第29回表美展	4/28-5/4	表装・額装・屏風	118
11	第12回カラダスト展	4/28-5/4	洋画	48
12	第22回墨の県展	5/6-10	水墨画・洋画	378
13	第38回千葉アマチュア美術会展	5/12-17	日本画・洋画・彫塑・版画・俳画・その他	1,554
14	第16回日中友好書道展覧会	5/19-24	書・中国画	3,970
15	第43回二科会千葉支部展	5/26-31	洋画	836
16	第24回養展	5/26-31	日本画・洋画・工芸・写真・その他	57
17	第45回千葉県書道協会展	6/2-7	書	533
18	第23回関東全展	6/9-15	日本画・洋画・その他	162
19	第25回千虹会日本画展	6/9-21	日本画	40
20	千葉幼児美術展	6/9-15	絵画	1,900
21	第20回新槐樹社千葉県支部展	6/17-21	洋画・彫塑	40
22	第21回千葉一陽展	6/17-21	洋画	189

番号	展 覧 会 名	利用期間	展 示 内 容	出品点数
23	第26回水彩連盟千葉支部展	6/23-28	洋画	61
24	第43回千葉二紀会展	6/23-28	洋画	101
25	第13回日本画四季展	6/23-7/5	日本画	53
26	第42回千葉県小中学校書写展覧会	6/30-7/5	書	1,500
27	〈明日を拓く〉教育美術展	6/30-7/5	絵画	2,500
28	第21回精鋭展	6/30-7/5	洋画	100
29	第30回千葉市水墨画同好会連合会展	7/7-20	水墨画	168
30	第18回日本春秋書院千葉書連展	7/22-26	書	142
31	第96回習美会初夏大作展	7/22-26	日本画・洋画	202
32	第27回写真千葉県展	7/28-8/9	写真	331
33	第19回龍峽書道会千葉展	7/28-8/2	書	310
34	日本水彩画会第14回千葉県支部展	7/28-8/2	洋画	66
35	第32回漱雲会全国書道展	7/28-8/2	書	557
36	第8回太平洋美術会千葉支部展	8/4-9	洋画	180
37	第12回白亜美術千葉支部展	8/4-9	洋画	45
38	第28回いてふ会彫刻展	8/11-23	彫刻	47
39	第28回新構造千葉支部展	8/18-23	洋画・彫刻・工芸・写真	142
40	第36回新世紀千葉支部展	8/25-30	洋画	73
41	'98第一美術協会千葉県支部展	8/25-30	洋画・工芸・立体	150
42	第23回葉美会展	8/25-30	日本画・洋画・写真	67
43	第15回「美しい郷土」 絵画コンクール優秀作品展	8/25-30	絵画	684
44	第38回白扇書道会展	9/1-6	書	6,056

番号	展 覧 会 名	利用期間	展 示 内 容	出品点数
45	第21回千葉等迦会千葉県支部展	9/8-13	洋画	54
46	第31回千葉県高校芸術祭「合同写真展」	9/8-13	写真	415
47	ダネラ展	9/8-13	工芸	30
48	千葉中美展	9/15-20	日本画・洋画	76
49	第30回記念千葉現展	9/15-20	洋画・工芸・写真・デザイン	139
50	第21回千葉県写真展	9/15-27	写真	150
51	第45回千葉県勤労者美術展	9/22-27	洋画・写真・書	315
52	第48回デザインフェスタCHIBA	9/22-27	デザイン	119
53	第30回ファンシー洋画展	9/29-10/4	洋画	82
54	第25回文化書道千葉県連合会公募展	9/29-10/4	書	183
55	第18回二科会写真部千葉支部展	9/29-10/4	写真	62
56	第9回千葉県教育芸術祭	10/6-11	洋画・工芸・書・写真・日本画・その他	846
57	日本書道学会千葉県連合会第14回書道展	10/6-11	書	129
58	第50回千葉県美術展覧会（県展）	10/17-11/15	日本画・洋画・彫刻・工芸・書	2,902
59	千葉県高校芸術祭 「美術工芸書道作品展」	11/18-29	日本画・洋画・彫刻・工芸・書・デザイン	3,478
60	第43回こども県展	12/1-13	絵画	9,050
61	第16回明るい社会づくり ポスターコンクール展覧会	12/15-20	絵画	1,040
62	千葉県立幕張総合高校書道部校外展	12/15-20	書	124
63	富士百景写真展	1/5-10	写真	101
64	第34回登龍社書初展	1/5-10	書	346
65	第16回千葉県医師会美術展	1/19-24	日本画・洋画・写真・工芸・書・デザイン	104
66	第32回千葉県老人クラブ会員作品展	1/19-24	日本画・洋画・写真・工芸・書・その他	359

番号	展 覧 会 名	利用期間	展 示 内 容	出品点数
67	群鴫書人展	1/26-31	書	44
68	第14回書星選抜展	1/26-31	書	284
69	第24回子ども造形展	2/2-7	洋画・彫刻・工芸・書・デザイン・その他	1,500
70	第51回千葉県小中高校書き初め展覧会	2/2-7	書	801
71	第26回千葉書壇秀抜展・新進展	2/9-14	書	416
72	千葉大学教育学部美術科図工科卒業制作展	2/16-21	洋画・彫刻・デザイン・工芸	54
73	千葉大学教育学部第33回学生書道展	2/16-21	書	416
74	千葉県建設業協会文化作品展	2/16-21	日本画・洋画・彫刻・工芸・写真・書	149
75	第28回千葉県大学美術連盟展	2/23-28	日本画・洋画・デザイン・立体・その他	64
76	第24回千葉県民写真展	2/23-3/7	写真	485
77	第4回翔洋展	3/9-14	洋画	51
78	第10回日本童謡の書展	3/9-14	書	2,374
79	和洋女子大学卒業展	3/9-14	書	28
80	第22回唱和会書展	3/16-22	書	126
81	第46回書星教育部展	3/24-28	書	557

施 設

この建物は、幾つかの建設候補地の中から、千葉港に隣接した臨海埋立地の一角に計画された。計画着手当時はこの付近は訪れる人も少なく、海を通して石油基地のタンク群や工場と煙を吐き出す煙突が望める環境であった。

このような当初の環境下で、空気汚染、降下煤塵そして塩害など、建物に与える悪影響が予測されるために、材料の選択、構法、空調計画等は十分な検討がなされた。以下、主な部分について記す。

外壁の打込みタイル—先積ブリック構法

従来の外壁をコンクリートで表現している建物とは異なり、炔器質タイルを型枠代にしてコンクリートを一体に打ち込む構法を用いた。

使用したタイルは従来の断面と異なり、コの字型の断面をしており、型枠にセットせずモルタルにて積上げられるように見込み寸法を5cmの厚みにしてある。

施工方法は、内型枠、配筋工程の次のタイルを積み5段毎に型枠のホームタイを通し、2,400mm程度まで積み上げ単管にて固定する。この2,400mmの高さは、設計段階での試作実験にて安全を確認した数値である。試作段階での支保工は、縦方向に角材を400ピッチに通し、横方向に単管を480ピッチに通し固定したが、施行時は、縦方向に単管を480ピッチに通して固定した。コンクリートの打設は、1.5m～2.0m/hの速度を目標に行い、ポンプにて打設可能程度までスランブを下げた。この工程を繰返しタイル壁面を構成していった。

タイル面の施工時の汚れ防止には、ふのりを塗布した。タイルの目地は積み上げる工程で仕上げられ、表面に表われない目地の空隙にコンクリートのノロが滲み込んでゆき、目地からの滲透水を防ぎ満足する状態に仕上がった。

屋根の天然スレート

前述のような環境のもとで、勾配屋根に適し、十分にもちこたえられる材料としては耐候性銅等が考えられたが、調査の結果により天然スレートを使用した。

空調計画

計画当初より、良好とはいえない外部環境から美術品をいかに保護するかが、海浜に建つ美術館として、ひとつの重要なテーマだった。外気取入れは、内部に自動巻取りフィルター、中性能フィルター、脱臭フィルターの3種類の空気清浄フィルターを組込んだ外気処理器を通して供給されている。

展示棟はC A V（定風量型）+ V A V（可変風量型）方式により計画されている。わが国の美術館は、平常の館内利用者に対して特別展や団体展等のときに非常に利用者がふえて、発熱負荷の変動が大きくなる。V A V方式は、こういった条件に対して非常に効果的であるといえる。

管理棟は、エネルギーの省力化にも役立つV A V方式を採用し、収蔵庫は、露点再熱制御方式により二つの条件の

異なる収蔵庫を2台の空調機で空調されている。

照明計画

展示壁面は、自然光源と人工光源とにより全体計画されている。

自然光源は展示棟の高窓から取り入れられ、外部の溝型ガラスと内部の紫外線吸収の亚克力拡散板を経て壁面に達する。しかし、太陽直射光の鉛直面照度は8時から15時の間で10%の時間が80,000lx以上、30%の時間が50,000lx以上、50%の時間が25,000lx（平均）以上、90%の時間が5,000lx以上という測定値があり、また水平面照度にしても50,000lx（薄暗）から5,000lx（曇天）の範囲と非常に明るい。このように必要以上に明るい光源は、調光通路内に設けられた2枚の電動スクリーン（これは、計算値により鉛直面照度60,000lx以上の条件のとき必要な枚数で、それぞれ異なった透過率を有する布を使用した）にて基準の壁面照度になるよう調光される。

計算値による通過率をもつクロスでの何回かの現場実験の結果、クロスは白地のポリエステル（通過率53.6%）と黒地のジョーゼット（通過率35%）の2枚を採用した。ここで留意すべき点は、クロスの遮光性能を良くするために、厚地の布や、コーティングされた布を使用すると壁面に色がつくことがある。壁面の照度分布の状態は、視覚的に均一な壁面が確保できた。

曇天・雨天に対しては、蛍光灯と白熱灯を補助照明として設置した。蛍光灯と白熱灯を併用したのは、演色性を高めるためである。

第1、2展示室は、すべて蛍光灯と白熱灯による人工光源で計画されている。壁面照度は、最高200lxに押えてある。

固定ケースは基準照度を180lxに設定した。照明方法は、全面アルミルーバーの天井ふところに蛍光灯を2本並列させ、その間に白熱灯2個を配置した。

〈設計及び工事監理者〉

大高建築設計事務所

〈施工者〉

建築：（株）竹中工務店

設備：空調＝東洋熱工業（株）

衛生＝第一管工事（株）

電気＝関東電気工事（株）

備品：天童木工、山口木工、佐々木ブラインド

〈都市計画地域指定〉

用途地域：準工業地域

〈規模・面積〉

敷地面積	33,057.87㎡
建築面積	8,777.94㎡
延床面積	10,663.57㎡
展示棟	6,343.02㎡
管理棟	2,818.89㎡
県民アトリエ棟	1,501.66㎡
駐車台数	97台

＜工期及び建設経費＞

(1) 第1期工事 (展示棟) 5,194.59㎡
(建築面積5,102.35㎡)

○工 期 昭和47年9月20日～昭和49年3月31日

工事費 775,967千円
本体工事 425,230千円
電気設備工事 79,663千円
空調設備工事 166,493千円
給排水衛生設備工事 28,995千円
外溝工事 67,705千円
ガス工事 7,881千円

(2) 第2期工事 (管理棟) 2,274.60㎡
(建築面積1,089.50㎡)

○工 期 昭和50年3月1日～昭和51年2月20日

工事費 453,800千円
本体工事 307,500千円
電気設備工事 30,000千円
空調設備工事 79,000千円
給排水衛生設備工事 19,514千円
外溝工事 17,786千円

(3) 第3期工事 (県民アトリエ) 1,501.66㎡
(建築面積1,449.34㎡)

○工 期 昭和54年3月22日～昭和55年2月29日

工事費 370,000千円
本体工事 265,300千円
電気設備工事 35,000千円
空調設備工事 56,200千円
給排水衛生設備工事 13,500千円

○工 期 昭和55年12月25日～昭和56年3月24日

工事費 8,000千円
外溝工事 8,000千円

(4) 第4期工事 (第8展示室1,148.43㎡
収蔵庫544.29㎡) 1,692.72㎡
(建築面積1,136.75㎡)

○工 期 昭和62年7月11日～昭和63年8月31日

工事費 747,500千円
本体工事 476,000千円
電気設備工事 81,000千円
空調設備工事 171,000千円
給排水衛生設備工事 19,500千円
総工事費 2,355.267千円

工期別面積一覧

区分	地階	1階	2階	塔屋	合計
第1期	325.04	4,750.79	61.00	57.76	5,194.59
第2期	—	1,185.10	1,089.50	—	2,274.60
第3期	—	1,403.15	98.51	—	1,501.66
第4期	15.46	1,132.97	544.29	—	1,692.72
合計	340.50	8,472.01	1,793.30	57.76	10,663.57

＜概要＞

建物

【階数】

地下1階、地上2階、塔屋1階建

【高さ】

基礎底：GL－5.00m
高 さ：GL＋15.20m

【構造】

主体構造：鉄筋コンクリート造
屋 根：鉄骨造
主鋼材：SS41及び高張力鋼
コンクリートの種類

A種・普通コンクリート(基礎・地中梁・1階スラブ)
Fc＝210kg/cm²
B種・軽量コンクリート(梁・スラブ用・地上部)
Fc＝300kg/cm²
C種・軽量コンクリート(地上部躯体でAB以外の
梁・壁など) Fc＝240kg/cm²

＜設備＞

【電気設備】

受 電 方 式：交流3相3線式6,000V 50Hz
電話交換方式：64回線デジタル交換機方式

【空調設備】

展示棟＝CAV(定風量型)＋VAV(可変風量型)方式
管理棟＝VAV方式
保管庫＝露点再熱制御方式
県民アトリエ棟＝各室ハンドリング方式
熱 源：空気熱源スクリュウ熱回収ヒートポンプ方式

【衛生設備】

給 水：ポンプ圧送方式、引込み管径75mm
排 水：汚水・雑排水合流方式系統(管径300)、雨水系
統(管径300)別、公設本管へ放流

【防災設備】

排煙方式：自然排煙、機械排煙(第1、2、7展示室)
消化方式：屋外・屋内消化栓、不燃性ガス消化設備(ハロ
ゲン1301)
自家発電：ディーゼル機関直結交流発電機、定格出力
100kVA

火災報知設備：P型1級自動火災報知設備

【その他の設備】

防犯設備：ITVカメラ設備、防犯警報装置
昇降機設備：荷物用エレベーター
規 模：容量3,000kg、

カゴ内法＝3,000mm×3,000mm×3,000mm、
速度30m/min

展示棟

玄関ホール	102.40㎡
クローク	91.80㎡
倉庫 A	2.70㎡
〃 B	〃
第1展示室	437.76㎡
〃 2	400.32㎡
〃 3	469.08㎡
〃 4	403.20㎡
〃 5	824.19㎡
〃 6	330.58㎡
〃 7	566.56㎡
〃 8	864.61㎡
食堂	119.52㎡
厨房	36.00㎡
従業員控室	17.28㎡
食堂ホール	49.20㎡
ミュージアムショップ	12.00㎡
ロビー	335.52㎡
第1休憩室	23.04㎡
〃 2	〃
〃 3	〃
便所 A	30.24㎡
〃 B	23.76㎡
身障者用便所	7.92㎡
コントロール室	20.16㎡
フィルター室	28.92㎡
工作室	31.00㎡
発電気室	25.00㎡
電気室	123.20㎡
ポンプ室	76.80㎡
機械室	305.20㎡
機械室(新)	283.82㎡
高架水槽室	11.46㎡
E.V機械室	27.28㎡
E.V廻り	54.56㎡
ダクトスペース	35.68㎡
廊下等	123.48㎡

計 ① 6, 343.02㎡

管理棟

(1階)	
第2会議室	22.62㎡
更衣室	14.38㎡
医務室	21.18㎡
書庫	22.02㎡
警備員室	43.59㎡
第1会議室	20.15㎡
倉庫	7.19㎡
湯沸室	5.19㎡
便所	24.54㎡
宿直室	34.20㎡
物置	9.92㎡
用務員室	31.83㎡
査査室・資料室	520.68㎡
準備室・荷解室	
消毒室	31.79㎡
資料倉庫	124.25㎡
荷解梱包室	52.67㎡
荷扱人室	21.94㎡
機械室	51.74㎡
廊下等	123.97㎡

小計 1,183.85㎡

(2階)

館長室	33.27㎡
副館長室	23.42㎡
第1応接室	14.67㎡
第2応接室	14.55㎡
庶務課室	112.34㎡
会議室	43.84㎡
学芸課・普及課室	195.32㎡
学芸相談室	23.91㎡
研究工作室	216.49㎡
写真スタジオ	54.30㎡
器材室	6.74㎡
暗室	12.19㎡
第1収蔵室	184.40㎡
〃 2	42.81㎡
〃 3	544.29㎡
E.V前室	16.39㎡
便所	21.50㎡
湯沸室 A	3.24㎡
〃 B	6.87㎡
廊下等	60.94㎡
ダクトスペースその他	3.56㎡

小計 1,635.04㎡

計 ② 2,818.89㎡

県民アトリエ棟

1 F 機械室	25.92㎡
講堂倉庫	8.64㎡
講堂	259.24㎡
コントロール室	30.33㎡
ホール側便所	29.97㎡
情報資料室	172.77㎡
情報資料室倉庫	4.70㎡
事務室	22.76㎡
研修室	74.70㎡
研修室倉庫	4.23㎡
第1アトリエ	155.70㎡
〃 2	184.31㎡
〃 3	95.47㎡
アトリエ側便所	20.77㎡
荷解室	25.65㎡
窯場	27.17㎡
窯場倉庫	6.66㎡
ホールその他	352.67㎡
計 ③	1,501.66㎡

合計 10,663.57㎡
(①+②+③)

<参考>

*展示室総面積	4,296.30㎡
*収蔵庫総面積	771.50㎡

内容

①～⑧展示室

⑨食堂 (44席)

⑩玄関ホール

⑪トイレ

男子用 6 ヶ所

女子用 6 ヶ所

身体障害者用 2 ヶ所

⑫ホール

⑬講堂 (200人)

⑭情報資料室

火～金

12:30～16:30

⑮研修室 (40人)

⑯～⑳実技室

⑯窯場

⑳搬出入口

㉑機械室

㉒エレベーター

㉓館長室

㉔副館長室

㉕庶務課

㉖会議室

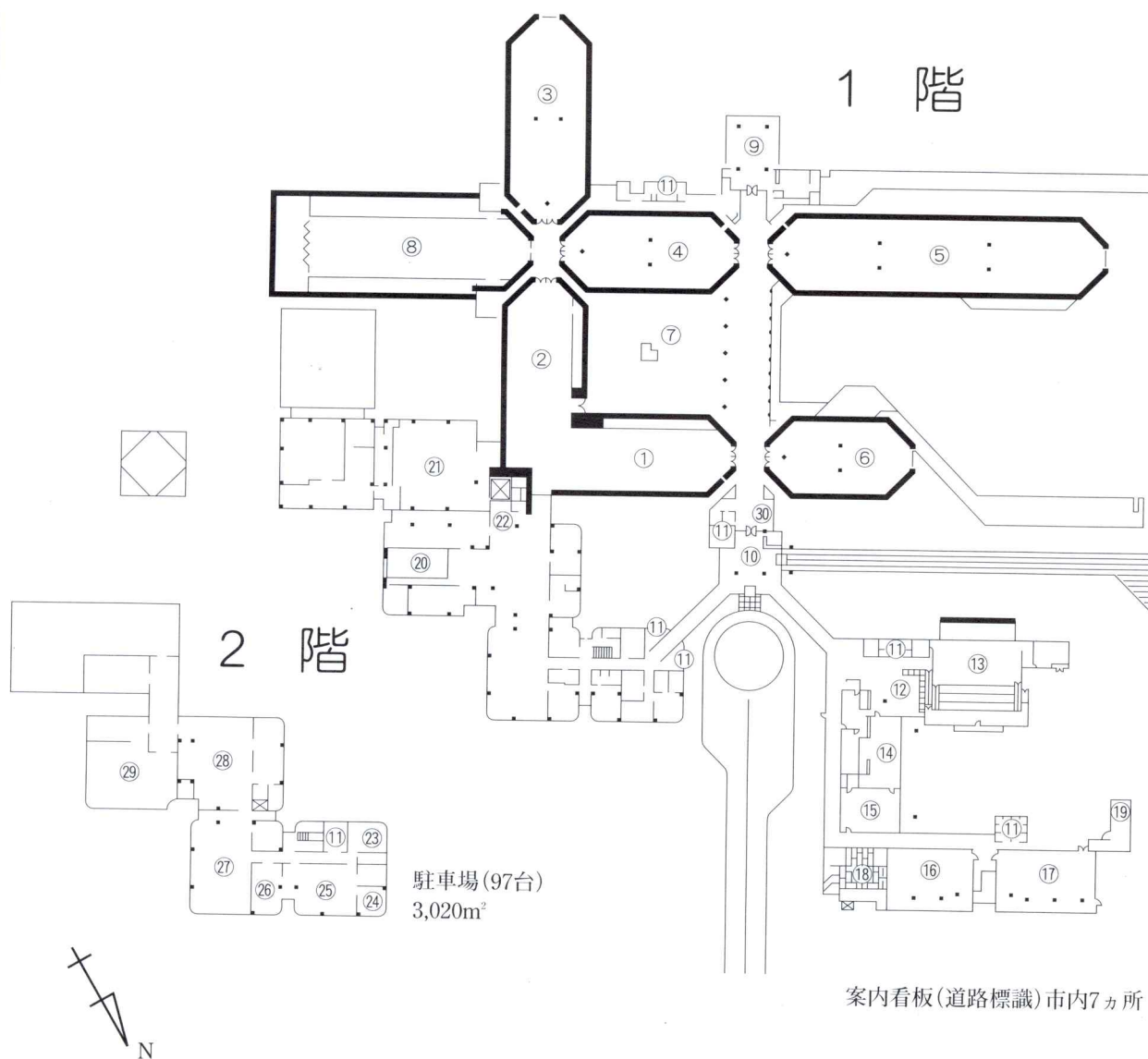
㉗学芸課・普及課

㉘研究工作室

㉙収蔵庫

㉚ミュージアム

ショップ



関係法令等

1. 博物館管理規則

昭和45年12月25日教育委員会規則第22号

(目的)

第1条 この規則は、教育機関設置条例（昭和32年千葉県条例第4号）第20条に規定する博物館（以下「館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(開館時間)

第2条 館の開館時間は、午前9時から午後4時30分までとする。

2. 館の長（以下「館長」という。）は、必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず、開館時間を変更することができる。

(休館日)

第3条 館の休館日は、次のとおりとする。

- 一 定期休館日 月曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）第2条に規定する日に当たるときは、その翌日）
- 二 国民の祝日に関する法律に規定する休日
- 三 年始休館日 1月1日から1月4日まで
- 四 年末休館日 12月26日から12月31日まで
- 五 臨時休館日 特別の事情により、館長が休館を必要と認めた日

2. 前項の休館日であっても、館長が特に必要と認めた場合は、館の全部又は一部を開館することがある。

(入館の制限)

第4条 館長は、次の各号のいずれかに該当する者に対して入館を禁じ、又は退館を命ずることができる。

- 一 特別展覧会又は現代産業科学館の映像ホールを観覧しようとする者で、所定の観覧券を所持しない者
- 二 適当な指導者、保護者又は付添人のない6歳に満たない者
- 三 泥酔者、伝染病患者その他観覧者に不快の感を与えると認められる者

(観覧券等)

第5条 館の特別展覧会観覧券は、別記第1号様式とする。

2. 現代産業科学館の映像ホール観覧券は、別記第2号様式とする。

3. 団体（20人以上の場合をいう。）で観覧しようとするときは、あらかじめ団体観覧申込書（別記第3号様式）により、館長に申し込まなければならない。

(禁止行為)

第6条 入館者は、次に掲げる行為をしてはならない。

- 一 展示品に手をふれること及び展示室でインク、墨汁類を使用すること。
- 二 許可なくして展示品を模写し、又は撮影すること。
- 三 所定の場所以外の場所において喫煙又は飲食をすること。
- 四 その他、他の入館者の妨げになるような行為をすること。

(損害の賠償)

第7条 館長は、入館者が館の展示品、建物若しくは備品等をき損し、又は汚損したときは、現品又は相当の代価をもって弁償させることがある。

(委任)

第8条 この規則の施行に関し必要な事項は、教育長の承認を得て、館長が定める。

附則

この規則は、昭和46年1月15日から施行する。

別記様式（省略）

2. 使用料及び手数料条例（抜粋）

昭和31年3月31日条例第6号

(趣旨)

第1条 県が徴収する使用料および手数料（以下「使用料等」という。）に関しては、別に規定するもののほか、この条例の定めるところによる。

(使用料の徴収)

第2条 県が所有し、又は管理する行政財産及び公の施設（以下「財産等という。」）の使用並びに特定の個人のためにする事務（以下「事務」という。）に関し、法令及び他の条例に規定するもののほか、当該財産等を使用しようとする者から使用料を、当該事務を依頼しようとする者から手数料を徴収するものとする。

(種類及び額)

第3条 前条の規定により使用料等を徴収する財産等及び事務の種類並びにその使用料等の額は、別表第一に掲げるとおりとする。

(中略)

(徴収の特例)

第8条の2 県民の日を定める条例（昭和59年千葉県条例第3号）に規定する県民の日その他規則で定める場合において、県の設置した公の施設で、規則で定めるものに係る使用料については、第2条及び第3条の規定にかかわらず、これを徴収しない。

別表第一（抜粋）

財産又は事務の種類	手数料	区 分	単 位	額
博 物 館	入館料	特 別 展覧会	1人1回 につき	1,000円 以 内

(以下省略)

3. 使用料及び手数料規則（抜粋）

昭和31年千葉県規則第29号

(徴収の特例)

第7条の2 条例第8条の2の規程による規則で定めるものは、別表第六のとおりとする。

別表第六（抜粋）

行 事 等	施 設
県民の日(6月15日) 65歳以上の者、身体障害者 (介護者を含む。) 又は精神薄弱者が使用する場合。	博 物 館

利 用 案 内

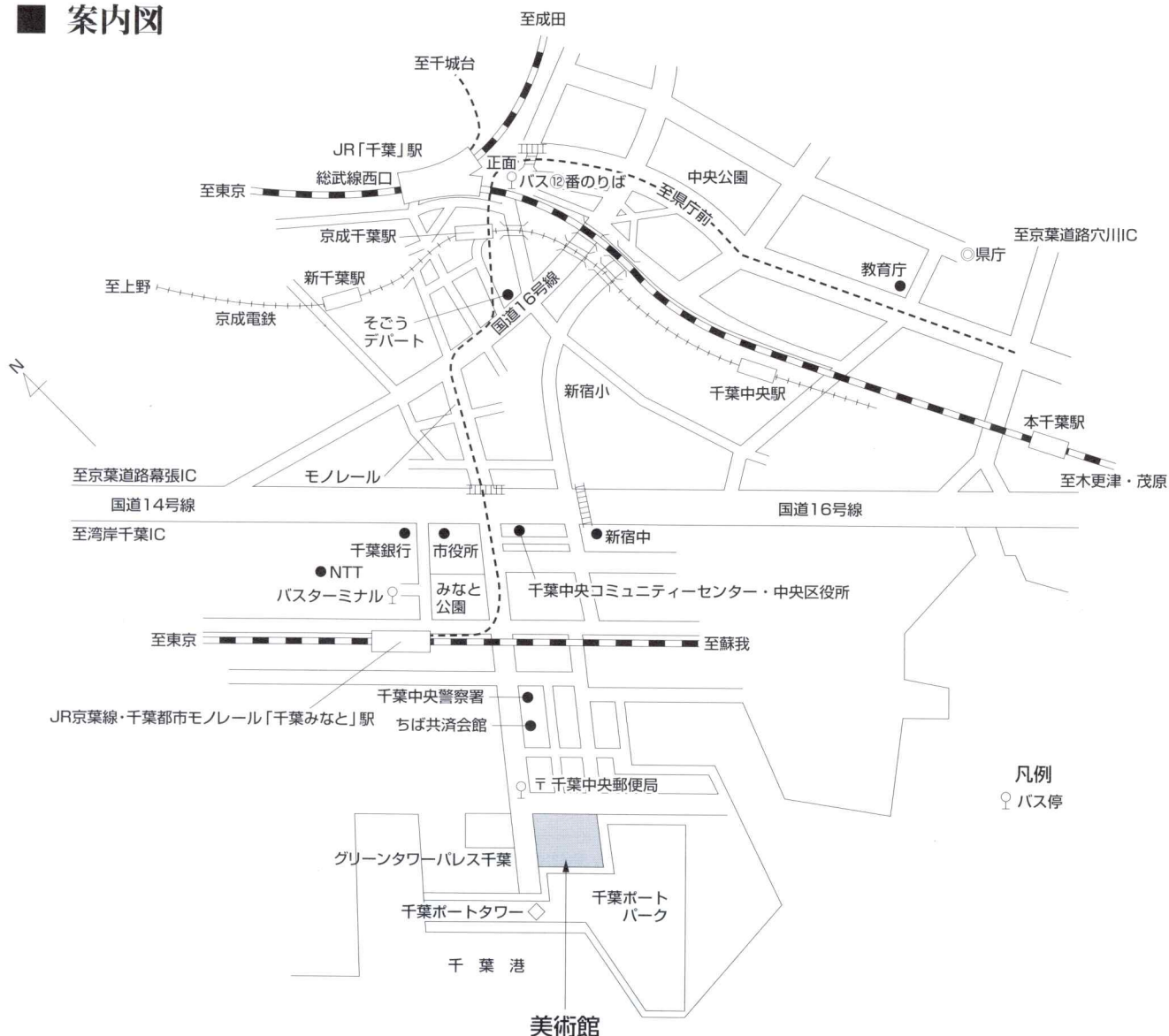
■ 開館時間

開館時間 午前9時から午後4時30分まで
 休館日 ・ 月曜日（ただし、月曜が祝日の
 ときは開館し、翌日休館）
 ・ 年末年始（12月26日～1月4日）
 ・ 展示替え等のため、必要がある
 とき。
 観覧料 ・ 無料（ただし、特別展は有料）

■ 交 通

★JR(京葉線)・千葉都市モノレール「千葉みなと」
 駅下車，徒歩8分。
 ★JR「千葉」駅・京成線「京成千葉」駅下車
 ●徒歩23分。
 ●バス⑫番のりばから「千葉ポートタワー」
 行にて15分。「美術館・中央郵便局前」下車，
 徒歩1分。

■ 案内図



平成10年度千葉県立美術館年報 (No.25)

平成11年6月10日発行

発行者 千葉県立美術館

〒260-0024 千葉市中央区中央港1-10-1

T E L 0 4 3 (2 4 2) . 8 3 1 1



